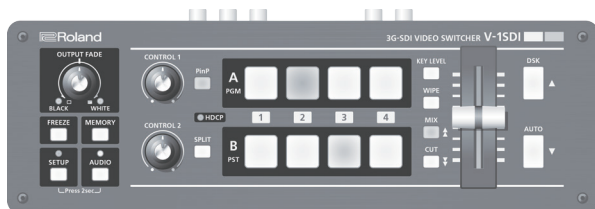


3G-SDI VIDEO SWITCHER V-1SDI



取扱説明書 Ver.1.5 以降

取扱説明書 (本書)

最初に読んでください。使いかたの基本操作を説明しています。

PDF マニュアル (Web からダウンロード)

• リファレンス・マニュアル

V-1SDIをMIDI経由でリモート・コントロールする方法やメニュー項目、RS-232コマンドについて説明しています。

PDF マニュアルの入手方法

1. パソコンなどで下記の URL を入力します。

<https://proav.roland.com/jp/>



2. V-1SDI の製品ページに移動し、「Support」をクリックします。

V-1SDI のシステム・プログラムを最新の状態にお使いください。システム・プログラムのバージョンアップ情報は、ローランドのホームページ (<https://proav.roland.com/jp/>) をご覧ください。システム・プログラムのバージョンは、[SETUP] ボタン長押し ⇒ SETUP メニューの SYSTEM (16/16 ページ) [VERSION] で確認できます。

目次

安全上のご注意	3	映像合成の操作	22
使用上のご注意	5	合成タイプを選ぶ	22
各部の名称とはたらき	6	4つの映像を1画面に合成する	22
トップ・パネル/フロント・パネル	6	ピクチャー・イン・ピクチャーで合成する	23
リア・パネル (機器を接続する)	8	スプリットで合成する	24
サイド・パネル (機器を接続する)	10	DSKで合成する	24
基本の操作	11	音声の操作	26
電源を入れる/切る	11	音量を調整する	26
自動的に電源を切る (オート・オフ)	11	音声にエフェクトをかける	27
メニューを操作する	12	入力音声にエフェクトをかける	27
設定を保存する/呼び出す (メモリー)	13	出力音声にエフェクトをかける	28
映像の入出力設定	14	映像の切り替えに音声の出力を連動する (オーディオ・フォロー)	29
映像の入出力フォーマットを設定する	14	その他の機能	30
出力映像を調整する	15	設定を工場出荷時の状態に戻す (ファクトリー・リセット)	30
チャンネル4のHDMI入力映像を調整する	15	誤操作を防止する (パネル・ロック)	30
チャンネル3に映像ソースを割り当てる	16	V-1SDIをリモート・コントロールする	31
プレビュー出力の表示モードを切り替える	16	資料	32
著作権保護 (HDCP) された映像を入力する	17	故障かな?と思ったら	32
映像の操作	18	切り替え効果一覧	33
映像を切り替える	18	ブロック・ダイヤグラム	34
映像切り替えの操作モードについて	18	主な仕様	36
PGM/PSTモードで切り替える	18	外形寸法図	38
A/Bモードで切り替える	19		
自動的に切り替える (オート・スキャン)	20		
入力映像を静止する (フリーズ)	20		
メイン出力映像にフェードをかける (アウトプット・フェード)	21		
入力映像から静止画をキャプチャーする	21		

本機を正しくお使いいただくために、ご使用前に「安全上のご注意」(P.3)と「使用上のご注意」(P.5)をよくお読みください。お読みになったあとは、すぐに見られるところに保管しておいてください。

同梱物の確認

以下の同梱物がすべてそろっているか確認してください。
同梱物に不足があった場合は、お買い上げ店までご連絡ください。

V-1SDI 本体



ACアダプター/電源コード



コード・フック



取扱説明書



ローランド ユーザー登録カード





保証書






安全上のご注意

火災・感電・傷害を防止するには

△警告と△注意の意味について

 警告	取り扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を表しています。
 注意	取り扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される内容を表しています。 ※物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を表しています。

図記号の例

	△は、注意（危険、警告を含む）を表しています。具体的な注意内容は、△の中に描かれています。左図の場合は、「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⊘は、禁止（してはいけないこと）を表しています。具体的な禁止内容は、⊘の中に描かれています。左図の場合は、「分解禁止」を表しています。
	●は、強制（必ずすること）を表しています。具体的な強制内容は、●の中に描かれています。左図の場合は、「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

----- 以下の指示を必ず守ってください -----

警告

完全に電源を切るときは、コンセントからプラグを抜く

電源スイッチを切っても、本機は主電源から完全に遮断されてはいません。完全に電源を切る必要があるときは、本機の電源スイッチを切ったあと、コンセントからプラグを抜いてください。そのため、電源コードのプラグを差し込むコンセントは、本機にできるだけ近い、すぐ手の届くところのものを使用してください。

オート・オフ機能について

本機は、操作をやめてから一定時間経過すると自動的に電源が切れます（オート・オフ機能）。自動的に電源が切れないようにするには、オート・オフ機能を解除してください（P.11）。

分解や改造をしない

取扱説明書に書かれていないことはしないでください。故障の原因になります。

個人で修理や部品交換はしない

必ずお買い上げ店またはローランドお客様相談センターに相談してください。

不安定な場所に設置しない

転倒や落下によって、けがをする恐れがあります。

警告

次のような場所で使用や保管はしない

- 温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）
- 水気の近く（風呂場、洗面台、濡れた床など）や湿度の高い場所
- 湯気や油煙が当たる場所
- 塩害の恐れがある場所
- 雨に濡れる場所
- ほこりや砂ぼこりの多い場所
- 振動や揺れの多い場所
- 風通しの悪い場所

付属の AC アダプターを AC100V で使用する

AC アダプターは、必ず付属のものを、AC100V の電源で使用してください。

付属の電源コードを使用する

電源コードは、必ず付属のものを使用してください。また、付属の電源コードを他の製品に使用しないでください。

電源コードを傷つけない

火災や感電の原因になります。

大音量で長時間使用しない

大音量で長時間使用すると、難聴になる恐れがあります。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、直ちに使用をやめて専門の医師に相談してください。

安全上のご注意

⚠ 警告

異物や液体を入れない、液体の入った容器を置かない

本機に、異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）や液体（水、ジュースなど）を絶対に入れないでください。また、この機器の上に液体の入った容器（花びんなど）を置かないでください。ショートや誤動作など、故障の原因となることがあります。



異常や故障が生じたときは電源を切る

次のような場合は、直ちに電源を切って AC アダプターをコンセントから抜き、お買い上げ店またはローランドお客様相談センターに修理を依頼してください。



- AC アダプター本体や電源コードが破損したとき
- 煙が出たり、異臭がしたりしたとき
- 異物が内部に入ったり、液体がこぼれたりしたとき
- 機器が（雨などで）濡れたとき
- 機器に異常や故障が生じたとき

お子様がけがをしないように注意する

お子様のいる場所で使用する場合やお子様を使用する場合、必ず大人のかたが、監視／指導してあげてください。



落としたり、強い衝撃を与えたりしない

破損や故障の原因になります。



タコ足配線はしない

発熱、発火する恐れがあります。



海外でそのまま使用しない

海外で使用する場合は、お買い上げ店またはローランドお客様相談センターに相談してください。



⚠ 注意

電源コードはプラグを持って抜く

断線を防ぐため、電源コードを機器本体やコンセントから抜くときは、必ずプラグを持ってください。



電源プラグを定期的に掃除する

電源プラグとコンセントの間にゴミやほこりがたまると、火災や感電の原因になります。

定期的に電源プラグを抜き、乾いた布でゴミやほこりを拭き取ってください。



⚠ 注意

長時間使用しないときは電源プラグを抜く

万一故障したとき、火災の原因になります。



電源コードやケーブルは煩雑にならないように配線する

足に引っかけると、本機の落下や転倒などにより、けがの原因になることがあります。



上に乗ったり、重いものを置いたりしない

転倒や落下によって、けがをする恐れがあります。



濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因になります。



移動するときはすべての接続をはずす

本機を移動するときは、電源プラグをコンセントから抜き、外部機器との接続をはずしてください。



お手入れするときは電源プラグをコンセントから抜く

コンセントから抜いておかないと感電の原因になります。



落雷の恐れがあるときは電源プラグをコンセントから抜く

コンセントから抜いておかないと故障や感電の原因になります。



小さな部品はお子様の手の届かないところに置く

下記の部品はお子様が悪く誤って飲み込んだりすることのないよう手の届かないところへ保管してください。



- 付属品
コード・フック (P.2)
- 取りはずしが可能な部品
ネジ (P.9、10)

接地端子の取り扱いに注意する

接地端子ネジは、お子様が誤って飲み込んだりすることのないよう取りはずした状態で放置しないでください。再度ネジを取り付ける際は、ゆるんではずれないように確実に取り付けてください。



使用上のご注意

電源について

- 本機を、インバーター制御の製品やモーターを使った電気製品（冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、エアコンなど）と同じコンセントに接続しないでください。電気製品の使用状況によっては、電源ノイズで本機が誤動作したり、雑音が発生したりすることがあります。電源コンセントを分けることが難しい場合は、電源ノイズ・フィルターを取り付けてください。
- AC アダプターは長時間使用すると多少発熱しますが、故障ではありません。

設置について

- 本機の近くにパワー・アンプなどの大型トランスを持つ機器があると、ハム（うなり）を誘導することがあります。この場合は、本機との間隔や方向を変えてください。
- 本機をテレビやラジオの近くで動作させると、テレビ画面に色ムラが出たりラジオから雑音が出たりすることがあります。この場合は、本機を遠ざけて使用してください。
- 本機の近くで携帯電話などの無線機器を使用すると、着信時や発信時、通話時に本機から雑音が出ることがあります。この場合は、無線機器を本機から遠ざけるか、電源を切ってください。
- 極端に温湿度の違う場所に移動すると、内部に水滴が付く（結露する）ことがあります。そのまま使用すると故障の原因になります。数時間放置して、結露がなくなってから使用してください。
- 設置条件（設置面の材質、温度など）によっては、本機のゴム足が設置した台などの表面を変色または変質させることがあります。
- 本機の上に液体の入った容器などを置かないでください。また、表面に付着した液体は、速やかに乾いた柔らかい布で拭き取ってください。

お手入れについて

- 変色や変形の原因となる、ベンジン、シンナー、アルコール類は使用しないでください。

修理について

- お客様が本機または付属品を分解（取扱説明書に指示がある場合を除く）、改造された場合、以後の性能について保証できなくなります。また、修理をお断りする場合もあります。
- 修理を依頼されるときは、事前に記憶内容をメモするか、専用ソフトウェア「V-1SDI RCS」(P.31) を使用して、バックアップを取っておいてください。修理するときには記憶内容の保存に細心の注意を払っておりますが、メモリー部の故障などで記憶内容が復元できない場合もあります。失われた記録内容の修復に関しましては、補償も含めご容赦願います。

修理について（つづき）

- 当社では、本機の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造切後6年間保有しています。この部品保有期間を修理可能な期間とさせていただきます。なお、保有期間を過ぎたあとも、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店、またはローランドお客様相談センターにご相談ください。

接地端子について

- 設置条件によっては、本機や本機に接続した機器（マイクやギターなど）の金属部に触れると、ビリビリとした感じがする場合があります。これは人体にまったく害のない極めて微量の帯電によるものですが、気になるかたは接地端子（P.9 図参照）を使って、外部のアースか大地に接地してお使いください。このとき、わずかにハム（うなり）が混じる場合があります。なお、接続方法がわからないときはローランドお客様相談センターにご相談ください。

接続してはいけないところ

- 水道管（感電の原因になります）
- ガス管（爆発や引火の原因になります）
- 電話線のアースや避雷針（落雷のとき危険です）

その他の注意について

- 記憶した内容は、機器の故障や誤った操作などによって失われることがあります。失っても困らないように大切な記憶内容は、専用ソフトウェア「V-1SDI RCS」(P.31) を使用して、バックアップを取っておいてください。
- 失われた記憶内容の修復に関しましては、補償を含めご容赦願います。
- 故障の原因になりますので、ボタン、つまみ、入力端子などに過度の力を加えないでください。
- ケーブルを抜くときは、ショートや断線を防ぐため、プラグ部分を持って引き抜いてください。
- 周囲に迷惑がかからないように、音量に十分注意してください。
- 本機が入っていた梱包箱や緩衝材を廃棄するときは、各地域のゴミの分別基準に従ってください。
- 本機を使用すると、極めて速いスピードでの映像切り替えや映像効果のオン/オフが可能です。そのような映像を見ると、体調によっては頭痛をもよおしたり気分が悪くなったりする可能性があります。本機を用いて、このような健康を害する恐れのある映像を制作しないでください。あなた自身もしくは他の視聴者の健康が害されても、弊社は一切の責任を負いません。
- 抵抗入りの接続ケーブルは使用しないでください。

各部の名称とはたらき

トップ・パネル／フロント・パネル

[OUTPUT FADE] つまみ P.21、26

メイン出力映像にフェードをかけたたり、出力音声の音量を調整したりします。

- [OUTPUT FADE] つまみの左右にあるインジケーターがフェード状態を示します。

点滅	フェード・イン/アウト中
消灯	通常の出カ

[FREEZE] ボタン P.20、21

- 入力映像を静止 (フリーズ) します。フリーズ中は、[FREEZE] ボタンが点灯します。
- キャプチャーした静止画を出力します。
- 専用ソフトウェア [V-1SDI RCS] から転送した静止画を出力します。

[SETUP] ボタン P.12

[SETUP] ボタンを長押し (2 秒以上) してオン (点灯) にすると、MULTI-VIEW 端子に接続したモニターに、SETUP メニューを表示します。

- **SETUP インジケーター**
パネル・ロック (P.30) が有効になっているボタンやつまみなどを操作したとき、点灯します。

[AUDIO] ボタン P.12、26

[AUDIO] ボタンを長押し (2 秒以上) してオン (点灯) にすると、MULTI-VIEW 端子に接続したモニターに、AUDIO メニューを表示します。

- **AUDIO インジケーター**
音声の入力または出力レベルを表示します。

[MEMORY] ボタン P.13

[MEMORY] ボタンを押している間、メモリー機能をオン (点灯) にします。映像/音声の設定や操作パネルの状態を 8 種類まで保存/呼び出しができます。メモリー機能がオンのとき、[A-1] ~ [A-4] [B-1] ~ [B-4] ボタンが、メモリー選択ボタン 1 ~ 8 として機能します。

[PinP] [SPLIT] ボタン P.22

PinP やスプリットなどの映像合成をオン/オフします。オンにすると、[PinP] または [SPLIT] ボタンが点灯します。

[CONTROL 1] [CONTROL 2] つまみ P.22

[PinP] [SPLIT] [KEY LEVEL] ボタンがオン (点灯) のとき、合成効果を調整します。



HDCP インジケーター P.17

HDCP (著作権保護) の設定と HDCP 対応機器の接続状態に合わせて、点灯/点滅/消灯します。

[KEY LEVEL] ボタン

P.25

オン(点灯)にすると、[CONTROL 1][CONTROL 2]つまみが DSK 合成時のキー・レベルとキー・ゲインを調整するショートカットとして機能します。

A/B フェーダー

P.12、18

Tバー型のビデオ・フェーダーです。Aバス (PGM) と Bバス (PST) の映像を切り替えます。

- メニューの表示中は、設定値を変更します。

[DSK] (▲) ボタン

P.12、24

DSK 合成をオン/オフします。オンにすると、[DSK] ボタンが点灯します。

- メニューの表示中は、メニュー項目を選びます。

[AUTO] (▼) ボタン

P.12、19

AバスとBバスの映像を自動的に切り替えます。

- メニューの表示中は、メニュー項目を選びます。

冷却ファン排気口



V-1SDI 内部の温度上昇を抑えるために、内部の熱を放出します。

ご注意!

- 冷却ファン排気口をふさがないでください。排気口をふさいでしまうと V-1SDI 内部の温度が上昇し、熱によって故障する恐れがあります。

[A-1] ~ [A-4] ボタン

P.18

ビデオ・ミキサーの Aバスに入力する映像を選びます。選ばれたボタンは、点灯します。

[B-1] ~ [B-4] ボタン

P.18

ビデオ・ミキサーの Bバスに入力する映像を選びます。選ばれたボタンは、点灯します。

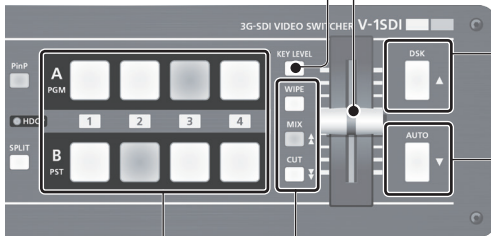
[WIPE]、[MIX] (▲)、[CUT] (▼) ボタン

P.12、24

映像の切り替え効果を選びます。選ばれたボタンが点灯します。

[WIPE]	元の映像に次の映像が割り込んでくる形で切り替わりします。
[MIX]	2つの映像が混ざり合いながら切り替わりします。
[CUT]	瞬時に映像が切り替わりします。

- [MIX] (▲)、[CUT] (▼) ボタンは、メニューの表示中、メニューのページを切り替えます。



リア・パネル（機器を接続する）

※ 他の機器と接続するときは、誤動作や故障を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞りを、すべての機器の電源を切ってください。

※ お使いの機器のコネクター形状に合ったケーブルや変換プラグをご用意ください。

MULTI-VIEW 端子 (*1) P.12、16

チャンネル 1 ~ 4 の入力映像を 4 分割画面で表示します。HDMI 入力のあるモニターを接続します。



※ 接続しているモニターへメニューを表示します。

(*1) 別の映像を出力することもできます (P.16)。

PVW 端子 (*1) P.16

次に出力される映像を表示します。SDI 入力のあるモニターを接続します。



PGM 端子

映像ミックスの結果（メイン出力映像）を出力します。SDI 入力のあるディスプレイや録画用のビデオ・レコーダーなどを接続します。



[POWER] ボタン P.11

電源をオン/オフします。

DC IN 端子

付属の AC アダプターを接続します。

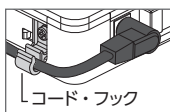
AC アダプターは、インジケーターのある面が上になるように設置してください。AC アダプターをコンセントに接続すると、インジケーターが点灯します。



※ AC アダプターのコードは、右図のようにコード・フックに固定してください。

誤ってコードを引っ張ってしまうと、プラグが抜けて電源が切れてしまうことや、端子に無理な力がかかることを防ぐことができます。

コード・フックの取り付け方は、「コード・フックを取り付ける」(P.10)をご覧ください。



USB 端子 P.31



USB2.0 端子

接続したパソコンから、専用ソフトウェア [V-1SDI RCS] を使って、V-1SDI をリモート・コントロールします。

※ V-1SDIは、リア・パネル全体で放熱する構造になっています。そのため、使用中にリア・パネルが熱くなる場合がありますが、故障ではありません。

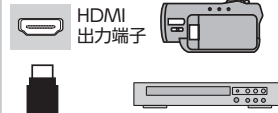
HDMI IN 4 端子 P.14、15

パソコンやビデオ・カメラ、BDプレーヤーなどのビデオ機器からHDMI信号を入力します。



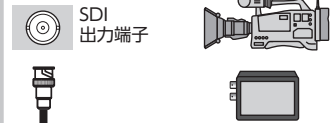
HDMI IN 3 端子 P.16

ビデオ・カメラやBDプレーヤーなどのビデオ機器からHDMI信号を入力します。



SDI IN 1 ~ 3 端子 P.16

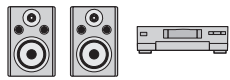
ビデオ・カメラやビデオ・レコーダーなどのビデオ機器からSDI信号を入力します。



接地端子

外部のアースまたは大地に接地します。詳しくは、「使用上のご注意」(P.5)の「接地端子について」をご覧ください。

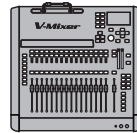
AUDIO OUT 端子



オーディオ入力端子

音声ミックスの結果を出力します。オーディオ・レコーダーやアンプ、スピーカーなどを接続します。RCAピン・タイプに対応しています。

AUDIO IN 端子



オーディオ出力端子

オーディオ・ミキサー、CDプレーヤーなどのオーディオ機器やビデオ機器から音声信号を入力します。RCAピン・タイプに対応しています。

サイド・パネル（機器を接続する）

MIC 端子

マイクを接続します。ステレオ・ミニ・タイプに対応しています。
プラグイン・パワーのマイクも使用できます。



[MIC] つまみ

マイクの入力感度を調整します。

PHONES 端子

ヘッドホンを接続します。ステレオ・ミニ・タイプに対応しています。



[PHONES] つまみ

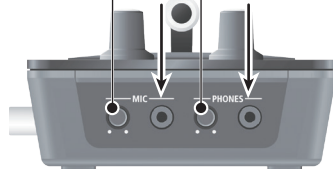
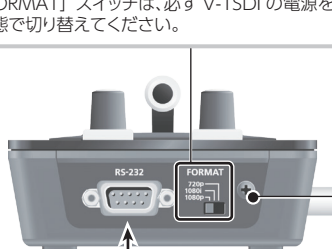
ヘッドホンの音量を調整します。

[FORMAT] スイッチ

P.14

入出力フォーマットを切り替えます。

※ [FORMAT] スイッチは、必ず V-1SDI の電源を切った状態で切り替えてください。



RS-232 端子

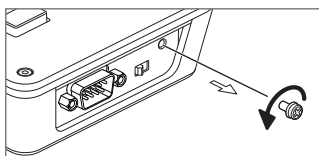
P.31



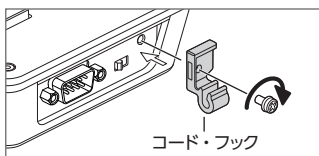
リモート・コントロール用の機器 (RS-232 対応のパソコンなど) を接続し、V-1SDI をリモート・コントロールします。

コード・フックを取り付ける

1. 図で指定された固定ネジ (1 本) を取りはずす。



2. 手順 1 ではずしたネジで、図のようにコード・フックを固定する。



コード・フック

基本の操作

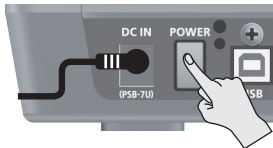
電源を入れる／切る

正しく接続したら (P.8～10)、必ず次の手順で電源を入れてください。手順を間違えると、誤動作をしたり故障したりすることがあります。

- ※ 電源を入れる／切るときは、音量を絞ってください。音量を絞っても電源を入れる／切るときに音がすることがありますが、故障ではありません。

電源を入れる

1. すべての機器の電源がオフになっていることを確認する。
2. V-1SDI のリア・パネルにある [POWER] ボタンを押して、電源を入れる。



- ※ V-1SDI は回路保護のため、電源を入れてからしばらくは動作しません。

3. ソース機器の電源を入れる。
ビデオカメラなど、V-1SDI の入力端子に接続したソース機器の電源を入れます。
4. 出力機器の電源を入れる。
プロジェクターなど、V-1SDI の出力端子に接続した機器の電源を入れます。

電源を切る

1. 出力機器 ⇒ ソース機器の順に電源を切る。
2. V-1SDI の [POWER] ボタンを押して、電源を切る。

メモ

- V-1SDI は、一定時間何も操作しないと、自動的に電源が切れます (オート・オフ機能)。自動的に電源が切れないようにするには、オート・オフ機能をオフにしてください。詳しくは、このページの「自動的に電源を切る (オート・オフ)」をご覧ください。

自動的に電源を切る (オート・オフ)

オート・オフとは、一定時間何も操作しないと、自動的に電源が切れる機能です。これにより、無駄な電力の消費を防ぎます。

工場出荷時、オート・オフ機能はオンに設定されています。V-1SDI は、以下の状態のまま 240 分経過すると、オート・オフ機能が働き、自動的に電源が切れます。

- V-1SDI が何も操作されない
- 音声／映像の入力がない

オート・オフ機能をオフまたはオンにするには、以下の手順で設定を変更します。

メモ

- オート・オフ機能により電源が切れた場合、再び電源を入れるには、[POWER] ボタンを押し戻してから電源を入れてください。

1. SETUP メニューを表示させ (P.12)、[AUTO OFF] を選ぶ。

```
[ SYSTEM ] (14/16)
HDCP = OFF
FRAME RATE = 59.94
FREEZE MODE = ALL
DEINTERLACE MODE = BOB
AUTO OFF = ON
OUTPUT FADE ASSIGN = V & A
```

2. A/B フェーダーで、オート・オフ機能のオン／オフを設定する。

設定値	説明
ON	オート・オフ機能をオンにします。自動的に電源が切れます。
OFF	オート・オフ機能をオフにします。電源は自動的に切れません。

3. メニューを閉じる (P.12)。

ご注意!

- 電源が切れると編集集中の設定は失われます。残しておきたい設定は、あらかじめ保存しておいてください。

起動時に特定の機能を実行／変更する 以下の機能を実行または変更して、V-1SDI を起動することができます。

起動時の動作	操作
設定を工場出荷時の状態に戻して起動する (P.30)。	[DSK] ボタンと [AUTO] ボタンを押しながら、[POWER] ボタンを押す。
SETUP メニュー [HDCP] を [ON] にして起動する (P.17)。	[PinP] ボタンを押しながら [POWER] ボタンを押す。
SETUP メニュー [HDCP] を [OFF] にして起動する (P.17)。	[SPLIT] ボタンを押しながら [POWER] ボタンを押す。

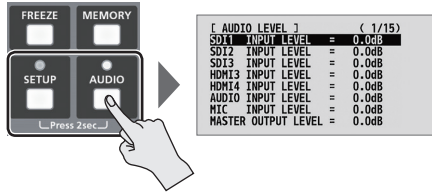
メニューを操作する

メニューを表示して、映像／音声に関する設定や V-1SDI 本体の設定をします。

※ メニューは、MULTI-VIEW 端子 (HDMI) に接続したモニターにのみ表示されます (P.8)。

メニューを表示する／閉じる

V-1SDI には、SETUP、AUDIO、INPUT STATUS の 3 つのメニューがあります。



※ メニューの表示中は、ボタンが点灯します。

SETUP メニュー

映像に関する設定や V-1SDI 本体の設定をします。

1. [SETUP] ボタンを長押し (2 秒以上) して、SETUP メニューを表示させる。
2. [SETUP] または [AUDIO] ボタンを押して、メニューを閉じる。

AUDIO メニュー

音声に関する設定をします。

1. [AUDIO] ボタンを長押し (2 秒以上) して、AUDIO メニューを表示させる。
2. [AUDIO] または [SETUP] ボタンを押して、メニューを閉じる。

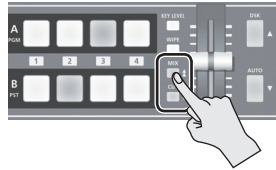
INPUT STATUS メニュー

各映像チャンネルに入力されている映像フォーマットや HDCP 信号の有無を表示します。

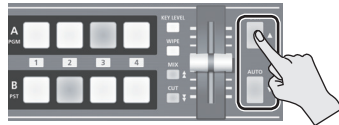
1. [SETUP] ボタンと [AUDIO] ボタンを同時に長押し (2 秒以上) して、INPUT STATUS メニューを表示させる。
2. [SETUP] または [AUDIO] ボタンを押して、メニューを閉じる。

メニュー項目を選ぶ

1. [MIX] (▲)、[CUT] (▼) ボタンでページを切り替える。



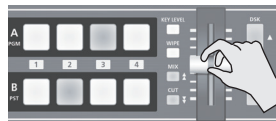
2. [DSK] (▲)、[AUTO] (▼) ボタンでカーソルを移動し、メニュー項目を選ぶ。



- [SDK] (▲)、[AUTO] (▼) ボタンを長押しすると、カーソルが早く移動します。

設定値を変更する

1. A/B フェーダーで、設定値を変更する。



- ※ 以下の SETUP メニュー項目は、[DSK] (▲) ボタンを押して設定を確定します。設定を確定しないまま 15 秒経過すると、変更が反映されず元の設定に戻ります。

- VIDEO OUTPUT (3/16) : COLOR SPACE
- VIDEO OUTPUT (3/16) : DVI-D/HDMI SIGNAL
- SYSTEM (14/16) : FRAME RATE

メモ

- メニューの表示中、[WIPE] ボタンを長押し (2 秒) すると、選択中のメニュー項目が初期値に戻ります。さらに [WIPE] ボタンを長押し (5 秒以上) すると、選択中のページ内にあるすべてのメニュー項目が初期値に戻ります。
- メニュー項目の詳細は、ローランドのホームページから『リファレンス・マニュアル』(PDF) をダウンロードしてご覧ください。

<https://proav.roland.com/jp/>

設定を保存する／呼び出す（メモリー）

映像／音声の設定や操作パネルの状態など、現在の設定を1つのセットにしてメモリーに保存し、必要なときに呼び出して使うことができます。V-1SDIには、8個のメモリーが用意されています。

メモリーに保存される設定

メモリー（1～8）には、以下のメニューの設定と操作パネルの状態が保存されます。

- ① **SETUP メニューの設定（一部）**
VIDEO INPUT (1/16 ページ) から DSK (8/16 ページ) までの設定が保存されます。
- ② **AUDIO メニューの設定（すべて）**
- ③ **操作パネルの状態**
[OUTPUT FADE] つまみの状態
[CONTROL 1] [CONTROL 2] つまみの状態
[PinP] [SPLIT] ボタンのオン／オフ
[A-1] ～ [A-4] ボタンの選択
[B-1] ～ [B-4] ボタンの選択
[KEY LEVEL] ボタンのオン／オフ
[MIX] [WIPE] [CUT] ボタンの選択
[DSK] ボタンのオン／オフ
A/B フェーダーの状態

メモ

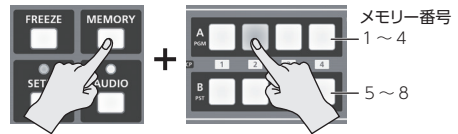
- SETUPメニューのうち、PANEL (9/16 ページ) から SYSTEM (16/16 ページ) までの設定は、メモリーに保存されません。本体に1セットだけ保存されます。設定を変更後、メニューを閉じるタイミングで本体に保存されます。
- 起動時に、指定したメモリー番号の設定を呼び出すことができます。SETUPメニューのMEMORY (13/16 ページ) [POWER ON LOAD] で、呼び出したいメモリー番号を指定します。
- 工場出荷時の設定では、メモリーの呼び出し時に、メモリーに記憶されている操作パネルの状態が反映されます。操作パネルの状態を反映させないときは、SETUPメニューのMEMORY (13/16 ページ) [MEMORY PANEL LOAD] を「OFF」に設定します。

保存する／呼び出す

[MEMORY] ボタンを押している間、メモリー機能がオンになります。

このとき [A-1] ～ [A-4] [B-1] ～ [B-4] ボタンが、メモリー選択ボタン1～8として機能します。

現在、呼び出されているボタンは、青色に点灯します。



メモリー 1 はラスト・メモリーとして機能します。

工場出荷時、メモリー 1 はラスト・メモリーとして機能します。

メニューを閉じたときや [MEMORY] ボタンを離したとき、設定が自動的にメモリー 1 に保存されます。

ラスト・メモリー機能を使わないときは、SETUPメニューのMEMORY (13/16 ページ) [AUTO MEMORY] を「OFF」に設定します。

保存する

ご注意!

保存先にメモリー 1 を選んだ場合、ラスト・メモリー機能によって、保存した内容が上書きされることがあります。

1. [MEMORY] ボタンを押しながら、設定を保存したい番号の [A-1] ～ [A-4] [B1] ～ [B-4] ボタンを長押し（2秒以上）する。

[A-1] ～ [A-4] [B1] ～ [B-4] ボタンがすべて一瞬青色に点灯し、現在の設定が保存されます。

2. メモリー機能をオフにするときは、[MEMORY] ボタンから指を離す。

呼び出す

1. [MEMORY] ボタンを押しながら、設定を呼び出したい番号の [A-1] ～ [A-4] [B1] ～ [B-4] ボタンを押す。

設定が呼び出されます。現在、選ばれているボタンは、青色に点灯します。

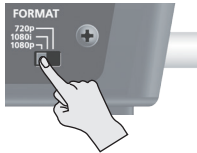
2. メモリー機能をオフにするときは、[MEMORY] ボタンから指を離す。

映像の入出力設定

映像の入出力フォーマットを設定する

入力する映像に合わせて、入出力フォーマットを設定します。

1. サイド・パネルにある [FORMAT] スイッチをスライドさせて、入出力フォーマットを設定する。



[FORMAT] スイッチ	入力フォーマット (*1)	出力フォーマット
1080p	1080p、1080i	1080p
1080i	1080p、1080i	1080i
720p	720p	720p

(*1) チャンネル 1～3 の入力フォーマットを設定します。チャンネル 4 の入力フォーマットについては、下記のコラムをご覧ください。

ご注意!

- [FORMAT] スイッチは、必ず V-1SDI の電源を切った状態で切り替えてください。

チャンネル 4 (HDMI IN 4) の入力フォーマット

チャンネル 4 (HDMI IN 4) は、以下の入力フォーマットに対応しています。

入力フォーマット	
480/59.94i	576/50i
720/59.94p	720/50p
1080/59.94p	1080/50p
SVGA (800 × 600/60Hz)	XGA (1024 × 768/60Hz)
WXGA (1280 × 768/60Hz)	
SXGA (1280 × 1024/60Hz)	
FWXGA (1366 × 768/60Hz)	
SXGA+ (1400 × 1050/60Hz)	
UXGA (1600 × 1200/60Hz)	
WUXGA (1920 × 1200/60Hz)	

工場出荷時、チャンネル 4 の EDID 情報は、[AUTO] (すべての入力可能フォーマットの EDID 情報が送信される設定) になっています。

送信する EDID 情報を指定したい場合は、入力する映像信号に合わせて、SETUP メニューの VIDEO INPUT (2/16 ページ) [EDID] を変更します。

内部処理について

V-1SDI の内部処理は、プログレッシブです。インターレースで入力された映像は、自動的にプログレッシブに変換されます。

このとき、映像がギザギザになったように見えたり、PinP の子画面やプレビューの 4 分割画面で映像がぶれたりすることがあります。

これはプログレッシブ変換によるもので、故障ではありません。

メモ

- インターレース信号をプログレッシブ信号へ変換する方式には、「BOB」と「WEAVE」の 2 種類があります。

BOB	トップ・フィールドとボトム・フィールドを補間し、それぞれを 1 枚のフレームにします。 動きの多い映像に適しています。
WEAVE	トップ・フィールドとボトム・フィールドを結合して、1 枚のフレームにします。 動きの少ない映像に適しています。

変換方式は、SETUP メニューの SYSTEM (14/16 ページ) [DEINTERLACE MODE] で設定します。

フレーム・レートについて

入力可能なフレーム・レートは、「59.94」または「50」です。それ以外のフレーム・レートの映像を入力した場合、映像が出力されなかったり、コマ落ちしたりすることがあります。

フレーム・レートは、SETUP メニューの SYSTEM (14/16 ページ) [FRAME RATE] で「59.94」または「50」を選び、「[DSK] (▲) ボタンを押して変更します。

メモ

- フレーム・レートを変更したときは、V-1SDI の電源を入れ直してください。

出力映像を調整する

V-1SDI の出力を受ける機器に合わせて、出力映像を調整します。

メモ

- ディスプレイの画質調整に便利なカラー・バーを出力することができます。SETUP メニューの SYSTEM (16/16 ページ) [COLOR BAR OUTPUT] を「ON」に設定します。

1. SETUP メニューを表示させ、メニュー項目を選ぶ (P.12)。

[VIDEO OUTPUT]	(3/16)
SDI OUTPUT	
PWM ASSIGN	= PST
3G-SDI MAPPING	= LEVEL B
HDMI OUTPUT	
OUTPUT ASSIGN	= PST
COLOR SPACE	= AUTO
DVI-D/HDMI SIGNAL	= AUTO

以下のメニュー項目で、出力映像を調整します。

VIDEO OUTPUT (3/16 ページ)	
メニュー項目	説明
3G-SDI MAPPING	3G-SDI 出力のマッピング・ストラクチャーを設定します。
COLOR SPACE	HDMI 出力のカラー・スペースを設定します。
DVI-D/HDMI SIGNAL	HDMI 出力の出力モードを設定します。
VIDEO OUTPUT (4/16 ページ)	
メニュー項目	説明
CONTRAST (*2)	コントラストを調整します。
SATURATION (*2)	彩度を調整します。
BRIGHTNESS (*2)	明るさを調整します。

(*2) HDMI 出力 (MULTI-VIEW 端子) と SDI 出力 (PGM 端子、PVW 端子) で共通の設定です。

3. A/B フェーダーで、出力映像を調整する。

※ 以下のメニュー項目は、[DSK] (▲) ボタンを押して、設定を確定します。設定を確定しないまま 15 秒経過すると、変更が反映されず元の設定に戻ります。

- VIDEO OUTPUT (3/16) : COLOR SPACE
- VIDEO OUTPUT (3/16) : DVI-D/HDMI SIGNAL

4. メニューを閉じる (P.12)。

チャンネル 4 の HDMI 入力映像を調整する

HDMI IN 4 から入力される映像は、画質の調整や、EDID の設定ができます。

1. SETUP メニューを表示させ、メニュー項目を選ぶ (P.12)。

[VIDEO INPUT]	(1/16)
CH3 INPUT SELECT	= AUTO
CH4 HDMI	
SCALING TYPE	= FULL
H. POSITION	= 0
V. POSITION	= 0
ZOOM	= 100

以下のメニュー項目で、チャンネル 4 の HDMI 入力映像を調整します。

VIDEO INPUT (1/16 ~ 2/16 ページ)	
メニュー項目	説明
SCALING TYPE	スケーリング・タイプを設定します。
H. POSITION	水平方向の表示位置を調整します。
V. POSITION	垂直方向の表示位置を調整します。
ZOOM	拡大／縮小率を調整します。
CONTRAST	コントラストを調整します。
SATURATION	彩度を調整します。
BRIGHTNESS	明るさを調整します。
FLICKER FILTER	ちらつきを軽減します。
EDID	EDID を設定します。

2. A/B フェーダーで、HDMI 入力映像を調整する。

3. メニューを閉じる (P.12)。

チャンネル 3 に映像ソースを割り当てる

工場出荷時、チャンネル 3 の SDI 入力と HDMI 入力の選択は、「AUTO」（接続を自動判別する設定）になっています。SDI IN 3 端子と HDMI IN 3 端子の両方に機器が接続されている場合、SDI 入力が優先されます。

端子を指定して映像を入力したい場合は、設定を変更します。

1. SETUP メニューを表示させ (P.12)、「CH3 INPUT SELECT」を選ぶ。

[VIDEO INPUT]	(1/16)
CH3 INPUT SELECT	= AUTO
CH4 HDMI	
SCALING TYPE	= FULL
H.POSITION	= 0
V.POSITION	= 0
ZOOM	= 100

2. A/B フェーダーで、チャンネル 3 に入力する映像ソースを設定する。

設定値	説明
AUTO	接続されている端子を自動判別して、映像を出力します。 SDI IN 3 端子と HDMI IN 3 端子の両方に機器が接続されている場合は、SDI 入力が優先されます。
SDI	SDI IN 3 端子からのみ、映像を入力します。
HDMI	HDMI IN 3 端子からのみ、映像を入力します。

3. メニューを閉じる (P.12)。

プレビュー出力の表示モードを切り替える

V-1SDI のプレビュー出力には、3 種類の表示モードがあります。PVW 端子 (SDI) と MULTI-VIEW 端子 (HDMI) ごとに表示モードを設定できます。

1. SETUP メニューを表示させ (P.12)、「PVW ASSIGN」(PVW 端子) または「OUTPUT ASSIGN」(MULTI-VIEW 端子) を選ぶ。

[VIDEO OUTPUT]	(3/16)
SDI OUTPUT	
PVW ASSIGN	= PST
3G-SDI MAPPING	= LEVEL B
HDMI OUTPUT	
OUTPUT ASSIGN	= MULTI-VIEW
COLOR SPACE	= AUTO
DVI-D/HDMI SIGNAL	= AUTO

2. A/B フェーダーで、表示モードを設定する。

設定値	説明																								
	チャンネル 1 ~ 4 の入力映像を 4 分割画面で表示します。																								
																									
																									
	映像の周囲には、[A-1] ~ [A-4] [B-1] ~ [B-4] ボタンの選択に連動して、色枠が表示されます。 赤枠：出力中の映像 緑枠：次に出力される映像																								
MULTI-VIEW	音声のレベル・メーター表示																								
	※ MULTI-VIEW 端子 (HDMI) の出力にのみ、画面下に表示されます。																								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>表示</th> <th>入出力名</th> <th>レベル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>IN1</td> <td>SDI IN 1</td> <td>0 - ■■■■ 赤</td> </tr> <tr> <td>IN2</td> <td>SDI IN 2</td> <td>-6 - ■■■■ 赤</td> </tr> <tr> <td>IN3</td> <td>SDI IN 3 または HDMI IN 3</td> <td>-10 - ■■■■ 黄</td> </tr> <tr> <td>IN4</td> <td>HDMI IN 4</td> <td>-20 - ■■■■ 黄</td> </tr> <tr> <td>AUD</td> <td>AUDIO IN</td> <td>-30 - ■■■■ 緑</td> </tr> <tr> <td>MIC</td> <td>MIC</td> <td>-40 - ■■■■ 緑</td> </tr> <tr> <td>OUT</td> <td>MASTER OUT</td> <td>-50 - ■■■■ 緑</td> </tr> </tbody> </table>	表示	入出力名	レベル	IN1	SDI IN 1	0 - ■■■■ 赤	IN2	SDI IN 2	-6 - ■■■■ 赤	IN3	SDI IN 3 または HDMI IN 3	-10 - ■■■■ 黄	IN4	HDMI IN 4	-20 - ■■■■ 黄	AUD	AUDIO IN	-30 - ■■■■ 緑	MIC	MIC	-40 - ■■■■ 緑	OUT	MASTER OUT	-50 - ■■■■ 緑
表示	入出力名	レベル																							
IN1	SDI IN 1	0 - ■■■■ 赤																							
IN2	SDI IN 2	-6 - ■■■■ 赤																							
IN3	SDI IN 3 または HDMI IN 3	-10 - ■■■■ 黄																							
IN4	HDMI IN 4	-20 - ■■■■ 黄																							
AUD	AUDIO IN	-30 - ■■■■ 緑																							
MIC	MIC	-40 - ■■■■ 緑																							
OUT	MASTER OUT	-50 - ■■■■ 緑																							
PGM	出力中の映像を表示します。																								
PST	次に出力される映像を表示します。																								

※ MULTI-VIEW 端子 (HDMI) の出力にのみ、すべての表示モードで SDI と HDMI を識別するラベルが表示されます。

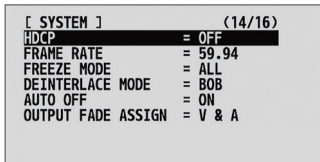
3. メニューを閉じる (P.12)。

著作権保護 (HDCP) された映像を入力する

BD プレーヤーなどから著作権保護 (HDCP) された映像を入力するには、HDCP の入力を有効に設定します。

※ 著作権保護 (HDCP) された映像を出力するときは、HDCP に対応したディスプレイを接続してください。

1. SETUP メニューを表示させ (P.12)、[HDCP] を選ぶ。



2. A/B フェーダーで、[ON] に設定する。

設定値	説明
ON	著作権保護 (HDCP) された映像を入力できます。また、出力される映像に HDCP を付加します。
OFF	著作権保護 (HDCP) された映像は入力できません。

3. メニューを閉じる (P.12)。

各端子からの出力

[HDCP] が [ON] のとき、映像は MULTI-VIEW 端子 (HDMI) からのみ出力されます。PVW 端子 (SDI) と PGM 端子 (SDI) から、映像は出力されません。

HDCP インジケータの動作

HDCP インジケータは、映像の入力に関係なく以下のように動作します。



インジケータ	[HDCP] の設定	接続状態
点灯	ON	MULTI-VIEW 端子に HDCP 対応機器を接続しています。
点滅	ON	MULTI-VIEW 端子に HDCP 対応機器を接続していません。または、HDCP に非対応の機器を接続しています。
消灯	OFF	—

映像の操作

映像を切り替える

ビデオ・ミキサーの A バスに入力されている映像と B バスに入力されている映像を切り替えます。

映像切り替えの操作モードについて

A/B フェーダーを使った映像切り替えには、「PGM/PST モード」と「A/B モード」の 2 つの操作モードがあります。

PGM/PST モード

常に PGM (A バス) 側の映像が出力され、PST (B バス) 側では、次に出力される映像を選びます。

A/B フェーダーを操作すると、PST 側で選ばれている映像が PGM 側から出力されます。

A/B モード

A/B フェーダーが倒れている側のバスの映像が出力されます。

工場出荷時、操作モードは PGM/PST モードに設定されています。

A/B モードで操作したい場合は、SETUP メニューの PANEL (9/16 ページ) 「PANEL MODE」を「A/B」に設定します。

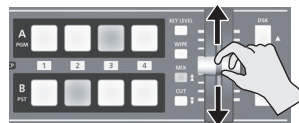
メモ

- [A-1] ~ [A-4] [B-1] ~ [B-4] ボタンの点灯色を変更することができます。SETUP メニューの PANEL (9/16 ページ) 「PGM LED」(出力中の映像のボタン) または「PST LED」(次に出力される映像のボタン) で設定します。

PGM/PST モードで切り替える

常に PGM 側の映像が出力されます。PST 側で次に出力したい映像を選び (スタンバイ)、確認してから映像を切り替えます。

1. A/B フェーダーをどちらかいっぱいに倒す。



2. [WIPE] [MIX] [CUT] ボタンのいずれかを押し、切り替え効果を選ぶ。



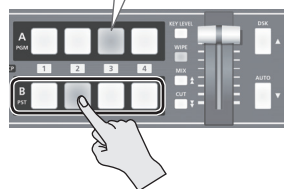
選ばれたボタンが点灯します。

メモ

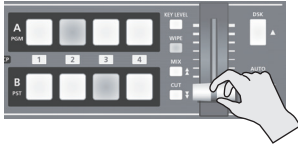
- ワイプとミックスの切り替えパターンを変更することができます。SETUP メニューの TRANSITION/PinP (5/16 ページ) 「WIPE」または「MIX」で設定します。切り替えパターンの種類は、「切り替え効果一覧」(P.33)をご覧ください。

3. [B-1] ~ [B-4] ボタンを押して、次に表示したい映像を選ぶ。

赤点灯：出力中の映像 (PGM 側)
緑点灯：次に出力される映像 (PST 側)
白点灯：映像入力のあるチャンネル



4. A/B フェーダーを手順 1 と反対の方向に倒す。



出力映像が切り替わります。
映像が完全に切り替わると、PGM 側と PST 側のボタンの点灯が入れ替わります。

メモ

- 映像を出力中の PGM 側で直接チャンネルを選ぶと、切り替え効果の選択に関係なく、カットで切り替わります。

[AUTO] ボタンで映像を自動的に切り替える

A/B フェーダーを使わずに、[AUTO] ボタンを使って映像を自動的に切り替えることができます。

メモ

- [AUTO] ボタンは、PGM/PST モード、A/B モードのどちらでも操作できます。

1. 映像を切り替えたいタイミングで、[AUTO] ボタンを押す。



[AUTO] ボタンを押すたびに、PGM (A バス) 側と PST (B バス) 側の映像が切り替わります。

- ※ 切り替え効果にミックスまたはワイプを選んでいるとき、映像の切り替え時間は、SETUP メニューの TRANSITION/PinP (5/16 ページ) 「TRANSITION TIME」が適用されます。

メモ

- [AUTO] ボタンを使って映像を切り替えると、A/B フェーダーの位置と実際の出力が異なる場合があります。この状態で A/B フェーダーを操作すると、A/B フェーダーの位置と実際の出力が一致するまで、出力が変化しませんが。
- [AUTO] ボタンを消灯することができます。SETUP メニューの PANEL (9/16 ページ) [AUTO LED] を [OFF] に設定します。

A/B モードで切り替える

A/B フェーダーが倒れている側のバスの映像が出力されます。

1. [A-1] ~ [A-4] [B-1] ~ [B-4] ボタンを押して、A バスと B バスに入力する映像を選ぶ。



赤点灯：出力中の映像
緑点灯：次に出力される映像
白点灯：映像入力のあるチャンネル

2. [WIPE] [MIX] [CUT] ボタンのいずれかを押し、切り替え効果を選ぶ。

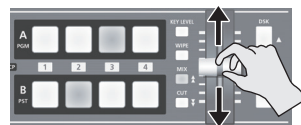


選ばれたボタンが点灯します。

メモ

- ワイプとミックスの切り替えパターンを変更することができます。SETUP メニューの TRANSITION/PinP (5/16 ページ) 「[WIPE] または [MIX]」で設定します。切り替えパターンの種類は、「切り替え効果一覧」(P.33)をご覧ください。

3. A/B フェーダーを A バス側または B バス側に倒す。



出力映像が切り替わります。

メモ

- 映像を出力中のバス側で直接チャンネルを選ぶと、切り替え効果の選択に関係なく、カットで切り替わります。

自動的に切り替える (オート・スキャン)

チャンネル 1 ~ 4 の映像を自動的に切り替えます。

メモ

- 映像入力のないチャンネルは、スキップされます。

1. SETUP メニューを表示させ (P.12)、「AUTO SCAN」を選ぶ。

[SYSTEM]	(15/16)
PWM INDICATOR	
LABEL	= OFF
TALLY	= ON
AUDIO LEVEL METER	= LOWER
AUTO SCAN	= OFF
SCAN TIME	= 5sec
TRANS TIME	= 0.5sec

2. A/B フェーダーで、「ON」に設定する。

設定値	説明
ON	オート・スキャン機能をオンにします。チャンネル 1 ~ 4 の映像を自動的に切り替えます。
OFF	オート・スキャン機能をオフにします。

- 以下の SETUP メニュー項目で、映像を表示する間隔と、映像の切り替えにかかる時間を設定できます。

SYSTEM (15/16 ページ)	
メニュー項目	説明
SCAN TIME	映像の表示間隔を 1 ~ 120 秒の範囲で設定します。
TRANS TIME	映像の切り替えにかかる時間を 0.0 ~ 4.0 秒の範囲で設定します。 ※ 切り替え効果にミックスまたはワイプを選んでいるときに有効です。

- ※ 映像の表示間隔より映像の切り替えにかかる時間が長い場合、映像切り替えの時間が優先されます。

3. メニューを閉じる (P.12)。

入力映像を静止する (フリーズ)

入力されている映像を一時的に静止します。

映像を静止させた状態で、切り替え効果をかけたり、映像を合成したりできます。

フリーズ・モードを設定する

フリーズには、「ALL モード」と「SELECT モード」の 2 つの操作モードがあります。工場出荷時は、「ALL」(すべての入力映像を静止する) に設定されています。

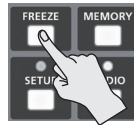
入力映像を選んで静止させたい場合は、SETUP メニューの SYSTEM (14/16 ページ) 「FREEZE MODE」を「SELECT」に設定します。

メモ

- 「FREEZE MODE」を「STILL」に設定すると、「FREEZE」ボタンは静止画の出力ボタンとして機能します。

詳しくは、「静止画を出力する」(P.21)をご覧ください。

入力映像を静止する



フリーズ・モードが「ALL」のとき

1. [FREEZE] ボタンを押して、フリーズをオン (点灯) にする。

入力されているすべての映像が静止します。

2. フリーズをオフにするときは、もう一度 [FREEZE] ボタン押す。

フリーズ・モードが「SELECT」のとき

1. [FREEZE] ボタンを押して、フリーズをオン (点灯) にする。

[A-1] ~ [A-4] ボタンがすべて赤色に点滅します。

2. [A-1] ~ [A-4] ボタンを押して、静止させたい入力映像を選ぶ。



選んだ入力映像が静止します。

3. フリーズをオフにするときは、もう一度 [FREEZE] ボタン押す。

メイン出力映像にフェードをかける (アウトプット・フェード)

メイン出力映像にフェードをかけます。プレゼンテーションやバンド演奏のインターバルなど、映像を出力したくないときにメイン出力映像を黒映像 (または白映像) にすることができます。

[OUTPUT FADE] つまみの機能

[OUTPUT FADE] つまみには、以下の機能を割り当てることができます。

- メイン出力映像にフェードをかける。
- 出力音声の音量を調整する。

[OUTPUT FADE] つまみの機能は、SETUP メニューの SYSTEM (14/16 ページ) [OUTPUT FADER ASSIGN] で設定します。

※ 工場出荷時は、[V & A] に設定されています。

設定値	[OUTPUT FADE] つまみの機能
VIDEO	メイン出力映像にフェードをかけます。
V & A	メイン出力映像にフェードをかける機能と、出力音声の音量を調整する機能が同時にはたらきます。
AUDIO	出力音声の音量を調整します (P.26)。
BLACK / A	反時計方向に回すと、メイン出力映像に黒フェードをかけます。時計方向に回すと、出力音声の音量を調整します。

フェード・アウトする

1. [OUTPUT FADE] つまみを時計方向、または反時計方向いっぱいに戻す。



※ [BLACK / A] に設定しているときは、反時計方向 (黒フェード) のみ有効です。

[OUTPUT FADE] つまみを時計方向に回すと白に、反時計方向に回すと黒にフェード・アウトします。フェードがかかると、つまみの左または右にあるインジケーターが点滅します。

フェード・インする

1. [OUTPUT FADE] つまみを中央の位置に戻す。
インジケーターが点滅から消灯に変わり、出力が始まります。

入力映像から静止画をキャプチャーする

チャンネル 4 の入力映像から静止画をキャプチャーします。キャプチャーした静止画は、PGM 端子 (SDI) から出力できるほか、DSK 合成 (P.24) のソースとして使うことができます。

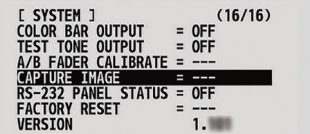
※ 専用ソフトウェア [V-1SDI RCS] を使って、パソコンから静止画を V-1SDI 本体に転送することもできます。

静止画をキャプチャーする

ご注意!

- 本体には、キャプチャーした静止画または V-1SDI RCS から転送した静止画のどちらかが、一時的に保存されます。すでに静止画が保存された状態で、新たに静止画キャプチャーや、V-1SDI RCS から静止画を転送すると、上書き保存されます。また、電源を切ると、静止画データは削除されます。

1. チャンネル 4 に映像を入力する。
2. SETUP メニューを表示させ (P.12)、[CAPTURE IMAGE] を選ぶ。



3. A/B フェーダーを A バス側に倒す。
4. [PRESS "UP"] と表示されているのを確認し、[DSK] (▲) ボタンを押す。
キャプチャーが実行され、[COMPLETE] と表示されます。
5. メニューを閉じる (P.12)。

静止画を出力する

1. [FREEZE] ボタンの機能を変更する。
SETUP メニューの SYSTEM (14/16 ページ) [FREEZE MODE] を [STILL] に設定します。
[FREEZE] ボタンが静止画の出力ボタンとして機能します。

2. [FREEZE] ボタンを押す。



※ 静止画を出力するときは、切り替え効果の選択に関係なく、カットで切り替わります。

切り替え時にすべての出力が一瞬間転送しますが、故障ではありません。

静止画が PGM 端子から出力されます。

3. 静止画の出力から映像出力に戻るときは、もう一度 [FREEZE] ボタンを押す。

映像合成の操作

Aバスの映像とBバスの映像を合成します。V-1SDIには、7種類の合成タイプが内蔵されています。

合成タイプを選ぶ

[PinP] [SPLIT] ボタンに割り当てる合成タイプを選びます。

1. SETUPメニューを表示させ (P.12)、[PinP] または [SPLIT] を選ぶ。

[TRANSITION/PinP]	(5/16)
TRANSITION TIME	= 1.0sec
TRANSITION PATTERN	
WIPE	= V-RIGHT
MIX	= MIX
PinP/SPLIT PATTERN	
PinP	= PinP 1/4
SPLIT	= SPLIT-VS

2. A/Bフェーダーで、[PinP] または [SPLIT] ボタンに割り当てる合成タイプを設定する。

設定値	説明
PinP 1/4	背景映像の上に子画面の映像を合成します。子画面の横幅は、背景映像の1/4です。
PinP 1/3	背景映像の上に子画面の映像を合成します。子画面の横幅は、背景映像の1/3です。
PinP 1/2	背景映像の上に子画面の映像を合成します。子画面の横幅は、背景映像の1/2です。
SPLIT-VS	映像を縦に引き伸ばして合成します。
SPLIT-VC	映像の中央部を縦に切り出して合成します。
SPLIT-HS	映像を横に引き伸ばして合成します。
SPLIT-HC	映像の中央部を横に切り出して合成します。
QUAD	チャンネル1～4の入力映像を1画面に合成します。

3. メニューを閉じる (P.12)。

メモ

- [PinP] ボタンを押しながら [CONTROL 1] つまみを回すと、[PinP] ボタンの合成タイプを変更できます。[SPLIT] ボタンの合成タイプは、[SPLIT] ボタンを押しながら [CONTROL 2] つまみを回すと変更できます。

4つの映像を1画面に合成する

チャンネル1～4の入力映像を1画面に合成します。



メモ

- 映像の合成中、映像切り替えはできません。

1. このページの「合成タイプを選ぶ」に従って、[QUAD] を選ぶ。
2. [PinP] または [SPLIT] ボタンを押して、映像合成をオン (点灯) にする。

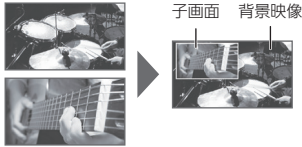


チャンネル1～4の入力映像が1画面に合成されます。

3. 映像合成をオフにするときは、もう一度 [PinP] または [SPLIT] ボタンを押す。

ピクチャー・イン・ピクチャーで合成する

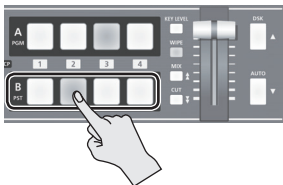
背景映像の上に子画面の映像を合成します。ここでは、PGM/PST モード時 (P.18) の操作を説明します。



1. 「合成タイプを選ぶ」 (P.22) に従って、「PinP 1/4」、「PinP 1/3」、または「PinP 1/2」を選ぶ。
2. [A-1] ~ [A-4] ボタンを押して、背景にしたい映像を選ぶ。



3. [B-1] ~ [B-4] ボタンを押して、子画面にしたい映像を選ぶ。



4. [PinP] または [SPLIT] ボタンを押して、映像合成をオン (点灯) にする。



5. 子画面の位置や大きさをプレビューで確認する。

プレビュー出力の表示モードを「PST」にすると、プレビューに子画面が表示され (黒背景)、子画面の位置や大きさを確認することができます。

出力モードについて詳しくは、「プレビュー出力の表示モードを切り替える」 (P.16) をご覧ください。

6. [CONTROL 1] [CONTROL 2] つまみを回して、子画面の表示位置を調整する。



【CONTROL 1】 つまみ

子画面の水平方向の表示位置を調整します。

【CONTROL 2】 つまみ

子画面の垂直方向の表示位置を調整します。

7. [AUTO] ボタンを押す。



子画面が背景映像と合成されて出力されます。もう一度 [AUTO] ボタンを押すと、子画面が消えます。

※ A/B フェーダーで子画面の表示/非表示を操作することもできます。

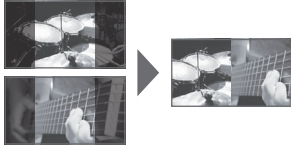
8. 映像合成をオフにするときは、もう一度 [PinP] または [SPLIT] ボタンを押す。

メモ

- 子画面に付ける縁取りの幅や色を変更することができます。SETUP メニューの TRANSITION/PinP (6/16 ページ) [WIDTH]、[COLOR] を設定します。

スプリットで合成する

画面を 2 分割にして 2 つの映像を合成します。
PGM (出力中の映像) の映像が上または左側、PST (次に出力される映像) の映像が下または右側に表示されます。



メモ

- 映像の合成中は、切り替え効果の選択に関係なく、カットで映像が切り替わります。

1. 「合成タイプを選ぶ」(P.22) に従って、「SPLIT-VS」、「SPLIT-VC」、「SPLIT-HS」、または「SPLIT-HC」を選ぶ。
2. [A-1] ~ [A-4] ボタンを押して、上または左側に表示したい映像を選ぶ。
3. [B-1] ~ [B-4] ボタンを押して、下または右側に表示したい映像を選ぶ。
4. [SPLIT] または [PinP] ボタンを押して、映像合成をオン (点灯) にする。



手順 2 と 3 で選んだ映像が合成されます。

5. [CONTROL 1] [CONTROL 2] つまみを回して、映像の表示位置を調整する。

※ 手順 1 で [SPLIT-HC] または [SPLIT-VC] を選んでいるときに調整できます。

● SPLIT-HC のとき

上または下側に表示される映像の垂直方向の位置を調整します。

[CONTROL 1] つまみ：上側の映像
[CONTROL 2] つまみ：下側の映像

● SPLIT-VC のとき

左または右側に表示される映像の水平方向の位置を調整します。

[CONTROL 1] つまみ：左側の映像
[CONTROL 2] つまみ：右側の映像

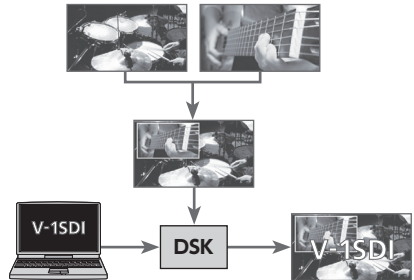


6. 映像合成をオフにするときは、もう一度 [SPLIT] または [PinP] ボタンを押す。

DSK で合成する

上流側 (アップストリーム) で PinP などで作成された映像に対して、下流側 (ダウンストリーム) でさらに文字や画像を合成します。

DSK では、文字や画像を表示したまま、背景の映像を切り替えることができます。



抜き色を設定する

工場出荷時、DSK の抜き色は「BLU-C.KEY」(青) に設定されています。

抜き色を白、黒、または緑にしたい場合は、設定を変更します。

1. SETUP メニューを表示させ (P.12)、[KEY TYPE] を選ぶ。

[DSK]	(7/16)
DSK	= OFF
SOURCE CH	= INPUT4
KEY TYPE	= WHT-L.KEY
KEY LEVEL	= 64
KEY GAIN	= 0
MIX LEVEL	= 255

2. A/B フェーダーで、合成時の抜き色を設定する。

設定値	説明
WHT-L.KEY	明るさを基準にして、白色を透明にします。
BLK-L.KEY	明るさを基準にして、黒色を透明にします。
GRN-C.KEY	色味を基準にして、緑色を透明にします。
BLU-C.KEY	色味を基準にして、青色を透明にします。

3. メニューを閉じる (P.12)。

DSK で合成する

1. ログや画像を入力する。

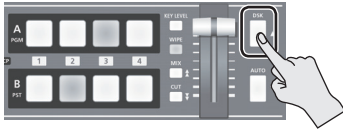
工場出荷時、「INPUT 4」（入力チャンネル 4）に入力された文字や画像が DSK 合成される設定になっています。

他のチャンネルに入力している文字や画像を使用したい場合は、SETUP メニューの DSK (7/16 ページ) [SOURCE CH] で入力チャンネルを変更します。

キャプチャーした静止画 (P.21) や専用ソフトウェア [V-1SDI RCS] から転送した静止画を合成したい場合は、「STILL」に設定します。

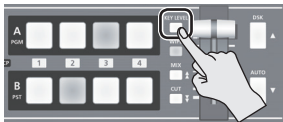
2. 背景映像を出力する。

3. [DSK] ボタンを押して、DSK をオン(点灯)にする。



文字や画像が合成されて出力されます。

4. [KEY LEVEL] ボタンを押す。



[KEY LEVEL] ボタンが点灯し、[CONTROL 1] [CONTROL 2] つまみで、キー・レベルやキー・ゲインの調整ができるようになります。

5. [CONTROL 1] [CONTROL 2] つまみを回して、効果のかかり具合を調整する。



[CONTROL 1] つまみ
文字や画像の抜け具合（キー・レベル）を調整します。

[CONTROL 2] つまみ
文字や画像のエッジのぼかし具合（キー・ゲイン）を調整します。

6. キー・レベルやキー・ゲインの調整を終えたら、もう一度 [KEY LEVEL] ボタンを押す。

[KEY LEVEL] ボタンが消灯します。

7. DSK をオフにするときは、もう一度 [DSK] ボタンを押す。

[DSK] ボタンが消灯し、出力から文字や画像が消えます。

メモ

- DSK 合成する文字や画像全体の濃度を調整することができます。SETUP メニューの DSK (7/16 ページ) [MIX LEVEL] を調整します。
 - DSK で合成する文字や画像のフェード時間は、SETUP メニューの TRANSITION/PinP (5/16 ページ) [TRANSITION TIME] が適用されます。
 - 抜き色が [GRN-C.KEY] (緑) [BLU-C.KEY] (青) のとき、以下の SETUP メニュー項目で、色相と彩度の微調整ができます。
- | DSK (8/16 ページ) | |
|------------------|----------------|
| メニュー項目 | 説明 |
| HUE WIDTH | 色相の幅を調整します。 |
| HUE FINE | 色相の中心位置を調整します。 |
| SATURATION WIDTH | 彩度の幅を調整します。 |
| SATURATION FINE | 彩度の中心位置を調整します。 |
- [DSK] ボタンを消灯することができます。SETUP メニューの PANEL (9/16 ページ) [DSK LED] を「OFF」に設定します。

音声の操作

音量を調整する

入力音声と出力音声の音量を調整します。

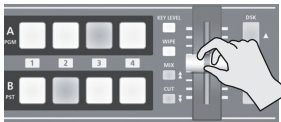
1. AUDIO メニューを表示させ (P.12)、音量を調整する入力音声を選ぶ。

[AUDIO LEVEL] (1/15)	
SDI1 INPUT LEVEL	= 0.0dB
SDI2 INPUT LEVEL	= 0.0dB
SDI3 INPUT LEVEL	= 0.0dB
HDMI3 INPUT LEVEL	= 0.0dB
HDMI4 INPUT LEVEL	= 0.0dB
AUDIO INPUT LEVEL	= 0.0dB
MIC INPUT LEVEL	= 0.0dB
MASTER OUTPUT LEVEL	= 0.0dB

以下のメニュー項目で、入力音声の音量を調整します。

AUDIO LEVEL (1/15 ページ)	
メニュー項目	説明
SDI 1 ~ 3 INPUT LEVEL	各 SDI IN からの入力音声
HDMI 3, 4 INPUT LEVEL	各 HDMI IN からの入力音声
AUDIO INPUT LEVEL	AUDIO IN からの入力音声
MIC INPUT LEVEL	MIC からの入力音声

2. A/B フェーダーで、各入力音声の音量を調整する。



たとえば、司会者用のマイクなど、強調したい音声の音量は上げて、他の音声の音量は下げます。音声の入力がないときや使わない音声は、音量を「-INF」に設定します。

メモ

- 「MASTER OUTPUT LEVEL」が「-INF」に設定されていると、出力端子から音声は出力されません。
- MIC の入力感度は、サイド・パネルの「MIC」つまみで調整します。

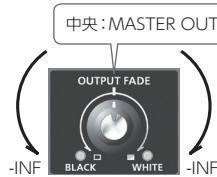
3. 「MASTER OUTPUT LEVEL」を選ぶ。

[AUDIO LEVEL] (1/15)	
SDI1 INPUT LEVEL	= 0.0dB
SDI2 INPUT LEVEL	= 0.0dB
SDI3 INPUT LEVEL	= 0.0dB
HDMI3 INPUT LEVEL	= 0.0dB
HDMI4 INPUT LEVEL	= 0.0dB
AUDIO INPUT LEVEL	= 0.0dB
MIC INPUT LEVEL	= 0.0dB
MASTER OUTPUT LEVEL	= 0.0dB

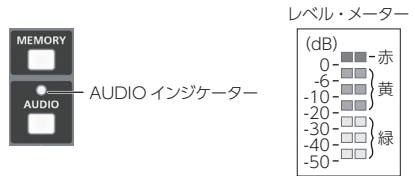
4. A/B フェーダーで、出力音声の音量を調整する。
5. メニューを閉じる (P.12)。

メモ

- 「OUTPUT FADE」つまみで、出力音声の音量を調整することもできます。詳しくは、「[OUTPUT FADE] つまみの機能」(P.21) をご覧ください。



- 音量の調整に便利なテスト・トーンを出力することができません。SETUP メニューの SYSTEM (16/16) ページ「TEST TONE OUTPUT」を「-20dB@1kHz」、「-6dB@1kHz」、または「0dB@1kHz」に設定します。
- 適正に音量が調整できているかどうか、AUDIO インジケータータワーやレベル・メーター (P.16) の点灯色で確認できます。



点灯色	状態
赤	0dB 以上で点灯します。音量が過大です。
黄	-19 ~ -1dB で点灯します。適正な音量です。
緑	-50 ~ -20dB で点灯します。音量が過小です。

※ 工場出荷時、AUDIO インジケータータワーの表示は、「MASTER OUT」(出力音声の信号レベル) に設定されています。AUDIO インジケータータワーで他の音声信号を確認したい場合は、SETUP メニューの PANEL (8/15) ページ「AUDIO LED」で設定を変更します。

※ AUDIO インジケータータワーやレベル・メーターが黄点灯する程度に調整しても、スピーカー出力の音量が適正でない場合は、スピーカーやアンプで音量を調整してください。「MASTER OUTPUT LEVEL」で調整すると、歪みや音質劣化の原因となる場合があります。

音声にエフェクトをかける

入力される音声や出力される音声にエフェクトをかけて、音質を調整します。

入力音声にエフェクトをかける

AUDIO IN、MIC、SDI IN、HDMI INからの入力音声にエフェクトをかけて、音質を調整します。
各入力音声に対して、使えるエフェクトは下表のとおりです。

入力音声	エフェクト				
	EQ	DELAY	HPF	COMP	GATE
AUDIO IN	○	○	—	—	—
MIC	○	○	○	○	○
SDI IN	○	○	—	—	—
HDMI IN	○	○	—	—	—

1. AUDIOメニューを表示させ (P.12)、使いたいエフェクトのメニュー項目を選ぶ。

[AUDIO DELAY] (3/15)	
CH1 SDI	= 0.0ms
CH2 SDI	= 0.0ms
CH3 SDI	= 0.0ms
CH3 HDMI	= 0.0ms
CH4 HDMI	= 0.0ms
AUDIO IN	= 0.0ms
MIC IN	= 0.0ms

※ エフェクトの詳細は、次項をご覧ください。

2. A/Bフェーダーで、設定値を調整する。
3. メニューを閉じる (P.12)。

イコライザー (EQ)

帯域ごとに音質を調整します。

SDI 1 (4/15 ページ) ~ MIC IN (10/15 ページ)	
メニュー項目	説明
EQ Hi	高域を増幅/減衰します。
EQ Hi FREQ	高域の音質を変化させるときの中心となる周波数を調整します。
EQ Mid	中域を増幅/減衰します。
EQ Mid FREQ	中域の音質を変化させるときの中心となる周波数を調整します。
EQ Mid Q	中域を増幅/減衰させるときの帯域幅を調整します。
EQ Lo	低域を増幅/減衰します。
EQ Lo FREQ	低域の音質を変化させるときの中心となる周波数を調整します。

ディレイ (DELAY)

音声を遅らせて出力します。
音声の出力を遅らせることで、映像と音声の出力タイミングを合わせることができます。

AUDIO DELAY (3/15 ページ)

各入力音声の遅延時間を調整します。

ハイ・パス・フィルタ (HPF)

不要な低域をカットします。カットオフ周波数は、75Hzです。

MIC IN (10/15 ページ)

メニュー項目	説明
HPF	ハイ・パス・フィルタのオン/オフを設定します。

コンプレッサー (COMP)

設定したレベルを超えた音声を圧縮します。

MIC IN (11/15 ページ)

メニュー項目	説明
COMP	コンプレッサーのオン/オフを設定します。
THRESHOLD	音声を圧縮するときの基準となるレベルを設定します。ここで設定したレベルを超えた音声を圧縮します。
RATIO	音声に対して、どのくらいの圧縮をかけるか設定します。圧縮していない状態を「1」と定義します。
ATTACK	スレッシュホルドを超える音声が入力された場合、圧縮を開始するまでにかける時間を設定します。
RELEASE	音声のスレッシュホルドを下回ったあと、圧縮をやめるまでの時間を調整します。

ゲート (GATE)

設定したレベル以下の音声を除去します。

MIC IN (11/15 ページ)

メニュー項目	説明
GATE	ゲートのオン/オフを設定します。
THRESHOLD	音声を除去するときの基準となるレベルを設定します。ここで設定したレベル以下の音声を除去します。
RELEASE	音声のスレッシュホルドを下回ったあと、音声が減衰しきるまでの時間を調整します。

出力音声にエフェクトをかける

出力音声にエフェクトをかけて、音質を調整します。

1. AUDIO メニューを表示させ (P.12)、使いたいエフェクトのメニュー項目を選ぶ。

[AUDIO OUTPUT] (12/15)	
EQ Hi	= 0dB
EQ Hi FREQ	= 8.00KHz
EQ Mid	= 0dB
EQ Mid FREQ	= 2.50KHz
EQ Mid Q	= 0.5
EQ Lo	= 0dB
EQ Lo FREQ	= 110Hz

※ エフェクトの詳細は、次項をご覧ください。

2. A/B フェーダーで、設定値を調整する。
3. メニューを閉じる (P.12)。

イコライザー (EQ)

帯域ごとに音質を調整します。

MASTER OUT (12/15 ページ)	
メニュー項目	説明
EQ Hi	高域を増幅／減衰します。
EQ Hi FREQ	高域の音質を変化させるときの中心となる周波数を調整します。
EQ Mid	中域を増幅／減衰します。
EQ Mid FREQ	中域の音質を変化させるときの中心となる周波数を調整します。
EQ Mid Q	中域を増幅／減衰させるときの帯域幅を調整します。
EQ Lo	低域を増幅／減衰します。
EQ Lo FREQ	低域の音質を変化させるときの中心となる周波数を調整します。

マスタリング (MASTERING)

音圧や音質を調整します。

MASTER OUT (15/15 ページ)	
メニュー項目	説明
MASTERING	マスタリングをオン／オフします。
NS	ノイズ・サプレッサーのかかり具合を調整します。
ENHANCER	エンハンサーのかかり具合を調整します。
Hi	高域の歪みを抑え、伸びのある音色に調整します。
Mid	中域の歪みを抑え、明瞭な音色に調整します。
Lo	低域の歪みを抑え、安定した音色に調整します。

リバーブ (REVERB)

音声に残響を加えます。

AUDIO IN、MIC、SDI IN、HDMI IN からの入力音声にリバーブをかけます。

MASTER OUT (13/15 ページ)	
メニュー項目	説明
LEVEL	リバーブからの音声の戻り量 (リターン・レベル) を調整します。「0」に設定すると、リバーブはかかりません。
TIME	リバーブの長さを調整します。
TYPE	ROOM: 響きやすい部屋の自然な残響が得られます。 HALL: コンサート・ホールなどで演奏しているような響きが得られます。

1. AUDIO メニューを表示させ (P.12)、「REVERB SEND LEVEL」でリバーブをかけたい入力音声を選ぶ。

[AUDIO OUTPUT] (14/15)	
REVERB SEND LEVEL	
CH1 SDI	= 100
CH2 SDI	= 100
CH3 SDI	= 100
CH3 HDMI	= 100
CH4 HDMI	= 100
AUDIO IN	= 100
MIC IN	= 100

2. A/B フェーダーで、リバーブへの音声の送り量を調整する。

必要に応じて、手順 1～2 を繰り返して、リバーブのかかり具合を個別に調整します。

3. AUDIO メニューから REVERB [LEVEL] を選ぶ。

[AUDIO OUTPUT] (13/15)	
REVERB LEVEL	= 0
TIME	= 1.0sec
TYPE	= Room

4. A/B フェーダーで、リバーブからの音声の戻り量を調整する。

入力音声ごとのリバーブのかかり具合のバランスを保ったまま、全体にかかるリバーブの深さを調整します。

5. メニューを閉じる (P.12)。

映像の切り替えに音声の出力を連動する（オーディオ・フォロー）

映像の切り替えに連動させて、出力映像の音声だけを出力し、その他の音声を自動的に消音します。また、AUDIO INまたはMICからの入力音声をオーディオ・フォローの対象にすることもできます。

1. 「音量を調整する」(P.26)に従って、出力したい音量になるように調整する。
2. AUDIOメニューを表示させ(P.12)、オーディオ・フォローする入力映像を選ぶ。

[AUDIO FOLLOW] (2/15)	
A.FOLLOW SDI1	= OFF
A.FOLLOW SDI2	= OFF
A.FOLLOW SDI3	= OFF
A.FOLLOW HDMI3	= OFF
A.FOLLOW HDMI4	= OFF
AUDIO IN	= OFF
MIC IN	= OFF

メニュー項目	説明
A. FOLLOW SDI 1 ~ 3	各 SDI INからの入力映像
A. FOLLOW HDMI 3, 4	各 HDMI INからの入力映像

3. A/Bフェーダーで、「ON」に設定する。

設定値	説明
ON	オーディオ・フォロー機能をオンにします。映像チャンネルが選ばれていないときは、自動的に消音します。
OFF	オーディオ・フォロー機能をオフにします。

4. メニューを閉じる (P.12)。
5. 映像を切り替える。

オーディオ・フォロー機能がオンの映像チャンネルは、他チャンネルの映像を出力しているとき、自動的に消音されます。

※ AUDIO INまたはMICからの入力音声をオーディオ・フォローするには、別に設定が必要です。詳しくは、このページの「オーディオ・フォローの対象を追加する」をご覧ください。

メモ

- MULTI-VIEW端子のプレビュー出力(4分割画面)で、オーディオ・フォローの設定を確認できます。オーディオ・フォローがオンになっている映像/音声チャンネルは、音声のレベルメーター下に「A.F」と表示されます。

オーディオ・フォローの対象を追加する

AUDIO INまたはMICからの入力音声をオーディオ・フォローの対象にすることができます。

1. AUDIOメニューを表示させ(P.12)、オーディオ・フォローの対象とする入力音声を選ぶ。

[AUDIO FOLLOW] (2/15)	
A.FOLLOW SDI1	= OFF
A.FOLLOW SDI2	= OFF
A.FOLLOW SDI3	= OFF
A.FOLLOW HDMI3	= OFF
A.FOLLOW HDMI4	= OFF
AUDIO IN	= OFF
MIC IN	= OFF

メニュー項目	説明
AUDIO IN	AUDIO INからの入力音声
MIC IN	MICからの入力音声

2. A/Bフェーダーで、オーディオ・フォローする映像チャンネルを設定する。

設定値	説明
1 ~ 4	入力音声に対して、オーディオ・フォローする映像チャンネルを指定します。指定した映像チャンネル以外では、AUDIO INまたはMICからの入力音声が消音します。
OFF	オーディオ・フォローする映像チャンネルを割り当てません。

3. メニューを閉じる (P.12)。

その他の機能

設定を工場出荷時の状態に戻す (ファクトリー・リセット)

V-1SDI で設定した内容を工場出荷時の状態に戻します。手順どおりに操作をしても、取扱説明書に記載されている内容と違う動作をするときは、ファクトリー・リセットを実行してみてください。

ご注意!

- ファクトリー・リセットを実行すると、それまでに設定した内容やメモリー (P.13) に保存された設定は、すべて失われます。

1. SETUP メニューを表示させ (P.12)、[FACTORY RESET] を選ぶ。

```
[ SYSTEM ] (16/16)
COLOR BAR OUTPUT = OFF
TEST TONE OUTPUT = OFF
A/B FADER CALIBRATE = ---
CAPTURE IMAGE = ---
RS-232 PANEL STATUS = OFF
FACTORY RESET = ---
VERSION 1.
```

- A/B フェーダーを A バス側に倒す。
- [PRESS "UP"] と表示されているのを確認し、[DSK] (▲) ボタンを押す。
(中止したいときは、A/B フェーダーを B バス側に倒す、または [AUTO] (▼) ボタンを押す。) ファクトリー・リセットが実行されます。
- メニューを閉じる (P.12)。

誤操作を防止する (パネル・ロック)

V-1SDI の誤操作を防ぐために、ボタンやつまみの操作をロックします。

1. SETUP メニューを表示させ (P.12)、パネル・ロックの対象を選ぶ。

以下のメニュー項目で、パネル・ロックの対象を選びます。

PANEL LOCK (10/16 ページ)	
メニュー項目	パネル・ロックの対象
ALL SW & VOLUME	PANEL LOCK のメニュー項目にあるすべての操作子
RIGHT SW	パネル右側の下記ボタン
DSK SW	[DSK] ボタン
AUTO SW	[AUTO] ボタン
LEFT SW	パネル左側の下記ボタン
FREEZE SW	[FREEZE] ボタン
MEMORY SW	[MEMORY] ボタン
AUDIO SW	[AUDIO] ボタン
PANEL LOCK (11/16 ページ)	
CENTER SW	パネル中央の下記ボタン
A/B BUS SW	[A-1] ~ [A-4] ボタン [B-1] ~ [B-4] ボタン
KEY LEVEL SW	[KEY LEVEL] ボタン
WIPE SW	[WIPE] ボタン
MIX SW	[MIX] ボタン
CUT SW	[CUT] ボタン
PinP SW	[PinP] ボタン
SPLIT SW	[SPLIT] ボタン
PANEL LOCK (12/16 ページ)	
VOLUME	下記つまみと A/B フェーダー
OUTPUT FADE VOL	[OUTPUT FADE] つまみ
CONTROL 1 VOL	[CONTROL 1] つまみ
CONTROL 2 VOL	[CONTROL 2] つまみ
A/B FADER	A/B フェーダー

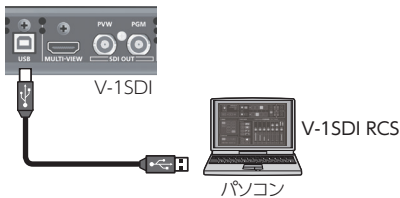
- A/B フェーダーで、パネル・ロックの有効 (ON) / 無効 (OFF) を設定する。
- メニューを閉じる (P.12)。

パネル・ロックが有効になっているボタンやつまみなどを操作したとき、SETUP インジケーターが点灯します。

V-1SDI をリモート・コントロールする

USB 接続したパソコンから、専用ソフトウェア「V-1SDI RCS」を使って、V-1SDI の以下の機能をリモート・コントロールすることができます。

- V-1SDI のパネル操作
- 切り替え効果の選択
- オーディオ・ミキサーの操作
- メモリーの書き出し／読み込み
- 静止画の転送



「V-1SDI RCS」は、下記のローランド・ホームページからダウンロードできます。

<https://proav.roland.com/jp/>

MIDI または RS-232 経由のリモート・コントロール

V-1SDI は、MIDI または RS-232 経由で外部機器からリモート・コントロールすることもできます。

MIDI または RS-232 経由のリモート・コントロールについては、上記のローランド・ホームページから『リファレンス・マニュアル』（PDF）をダウンロードしてご覧ください。

故障かな?と思ったら

故障かな?と思ったら、お問い合わせになる前に、以下の点をチェックしてみてください。
 チェックしても問題が解決しない場合は、お買い上げ店、またはお客様相談センターにお問い合わせください。

症状	確認	対策	ページ
映像に関するトラブル			
映像が入力されない	[A-1] ~ [A-4] [B-1] ~ [B-4] ボタンが白色に点滅していませんか?	V-1SDI の設定とは異なるフォーマットの映像が入力されています。設定したフォーマットに対応する映像を入力してください。	P.14
	著作権保護 (HDCP) のかかっている映像を入力していませんか?	著作権保護 (HDCP) のかかっている映像を入力する場合は、SETUP メニューの「HDCP」を「ON」に設定してください。	P.17
パソコンから入力した映像が映らない	パソコンから出力される映像のフォーマットは、V-1SDI の入力フォーマットに対応していますか?	チャンネル 1 ~ 3 の入力対応フォーマットは、1080p、1080i、または 720p です。チャンネル 4 のみ、VESA 規格の解像度に対応しています。	P.14
映像が出力されない	[OUTPUT FADE] つまみが、時計方向/反時計方向に回っていませんか?	工場出荷時の設定では、[OUTPUT FADE] つまみが時計方向/反時計方向に回っていると、メイン出力映像にフェードがかかります。映像を出力するときは、[OUTPUT FADE] つまみを中央の位置に合わせてください。	P.21
	ディスプレイを正しく接続していますか?	著作権保護 (HDCP) された映像を出力するときは、HDCP に対応したディスプレイを接続してください。	—
	SETUP メニューの「HDCP」が「ON」に設定されていませんか?	「HDCP」を「ON」にすると、映像は MULTI-VIEW 端子からのみ出力されます。PVM 端子と PGM 端子から、映像は出力されません。	P.17
砂嵐のような映像が出力される	HDMI 信号が正常に送受信できていない可能性があります。	HDMI ケーブルを接続し直してください。	—
HDMI 接続したモニター画面の色がおかしい	MULTI-VIEW 端子に接続したモニターと、V-1SDI のカラー・スペースの設定は合っていますか?	SETUP メニューの「COLOR SPACE」で設定を変更してください。 カラー・スペースは、機器によって DVI/HDMI の選択や、フォーマットの選択と連動している場合があります。この場合、出力先の機器でカラー・スペースを変更すると症状が改善されることがあります。	P.15
	ディスプレイに映像を表示したとき、周囲が切れて表示される	ディスプレイによっては、自動的にオーバー・スキャンすることがあります。ディスプレイの設定を変更してください。	—
ロゴや画像を合成できない	DSKで抜き色を正しく選んでいますか?	<ul style="list-style-type: none"> SETUP メニューの「KEY TYPE」で、ロゴや画像の背景色に合わせて、合成時の抜き色を選んでください。 [CONTROL 1] [CONTROL 2] つまみで、ロゴや画像のちょうどよい抜け具合の位置を調整してください。 	P.24
音声に関するトラブル			
音声が出力されない/ 音声が小さい	接続しているアンプやスピーカーの音量が下がっていませんか?	適正な音量に調整してください。	—
	V-1SDI の音量が下がっていませんか?	各入力音声を適正な音量に調整してください。また、全体の音量を調整してください。	P.26
	抵抗入りの接続ケーブルを使用していませんか?	抵抗の入っていない接続ケーブルを使用してください。	—
リバーブがわからない	リバーブへの音声の送り量は適正ですか?	リバーブへの音声の送り量が少なすぎると、リバーブ効果がわかりにくいことがあります。リバーブへの音声の送り量を調整してください。	P.28

切り替え効果一覧

ミックス

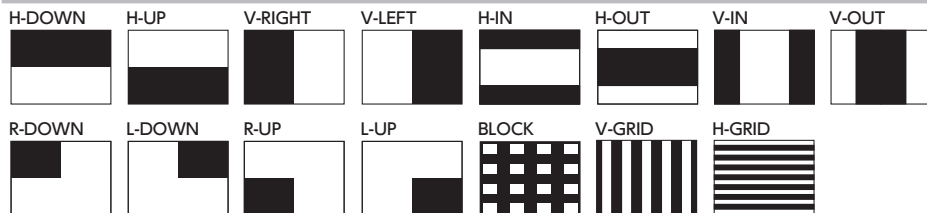


効果	説明
MIX	2つの映像が混ざり合いながら切り替わります。
FAM	2つの映像の輝度レベルを一定に保ちながら、映像が切り替わります。 ※ フル・アディティブ・ミックスの略です。
NAM	2つの映像を比較し、輝度レベルの高い部分を表示しながら、映像が切り替わります。 ※ ノン・アディティブ・ミックスの略です。
MOSAIC	モザイクのピクセルを変化させながら切り替わります。

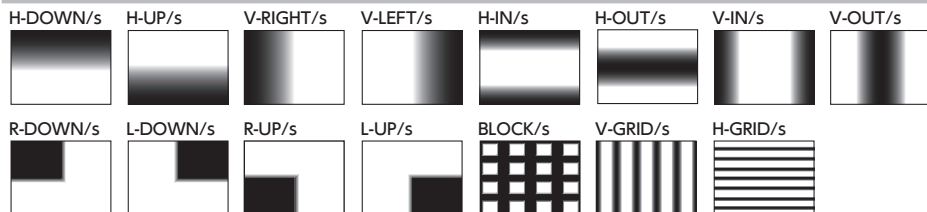
ワイプ

元の映像に次の映像が割り込んでくる形で切り替わります。

ノーマル

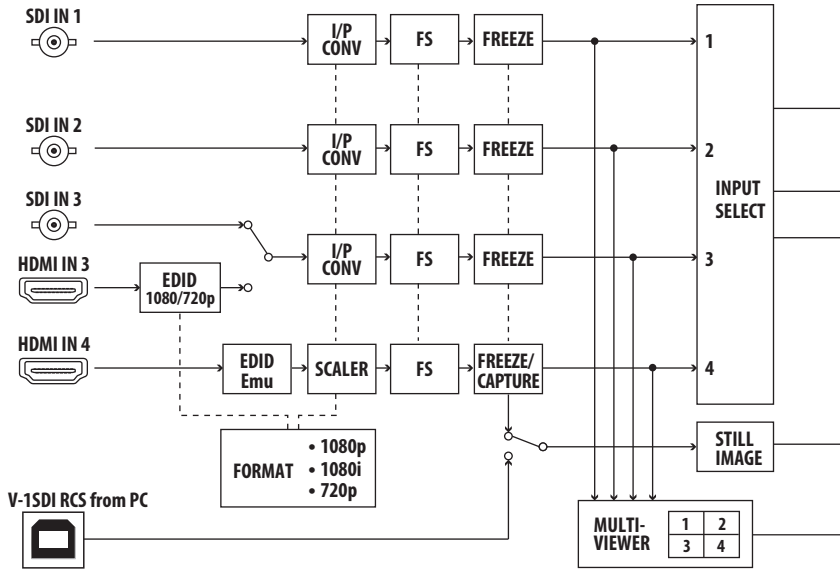


ソフトエッジ

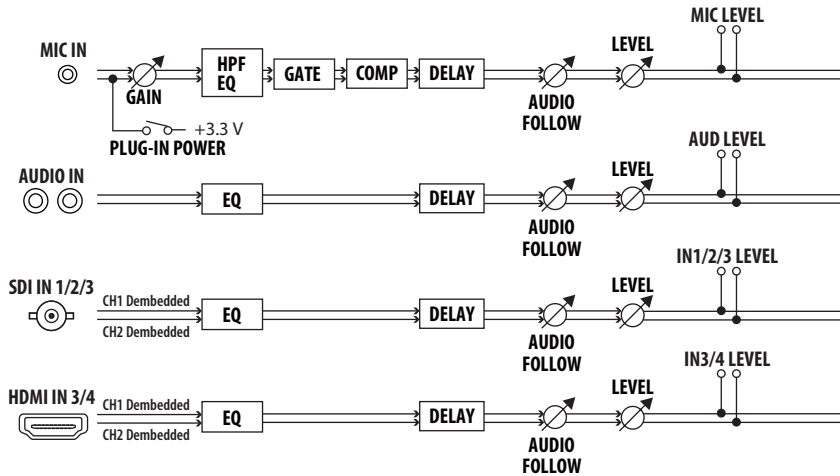


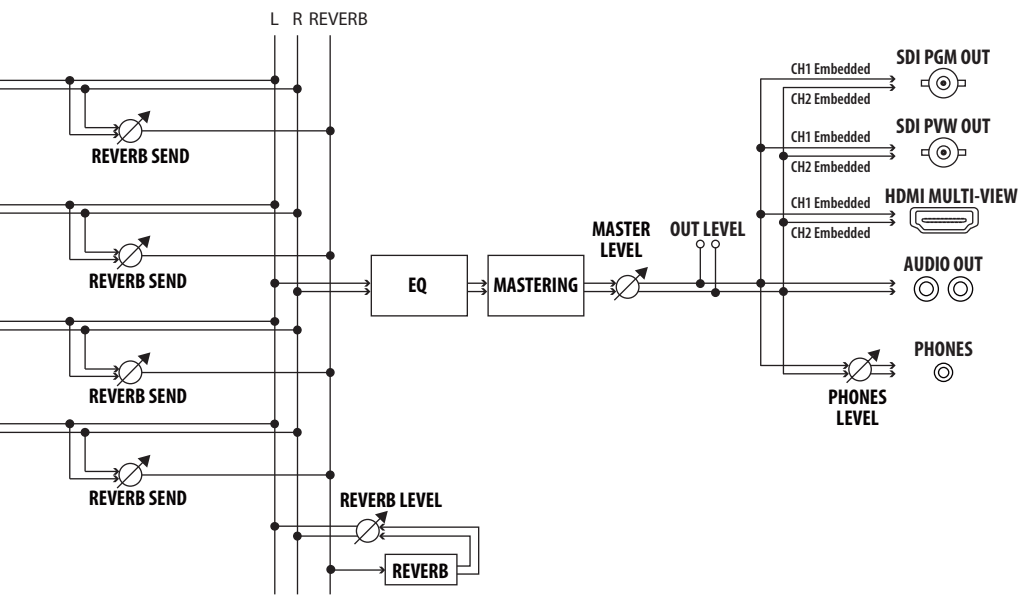
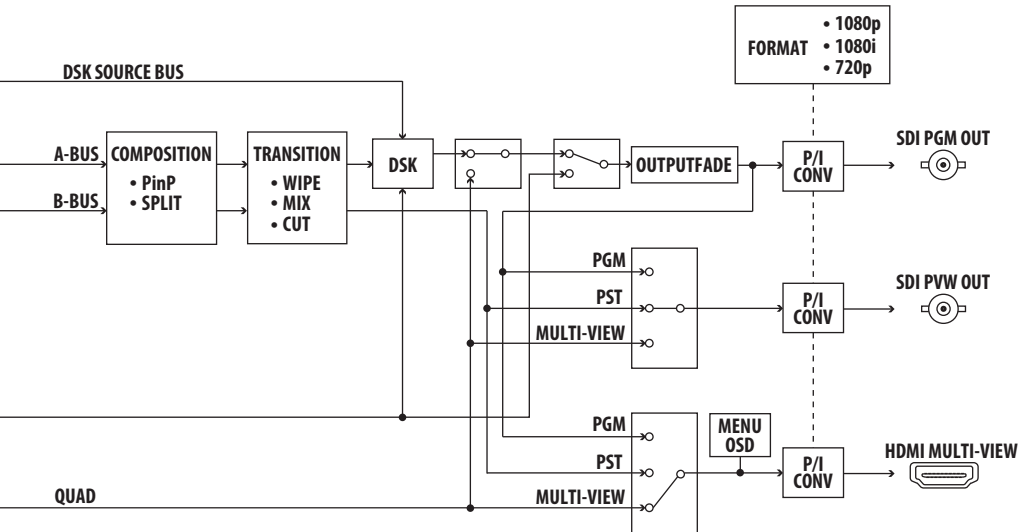
ブロック・ダイアグラム

Video Block



Audio Block





主な仕様 ローランド V-1SDI : 3G-SDI ビデオ・スイッチャー

■ 映像

映像処理	4:2:2 (Y/Pb/Pr)、8ビット	
入力端子	SDI INPUT 1 ~ 3	BNC × 3 ※ SMPTE 424M (SMPTE 425M-AB)、292M 準拠
	HDMI INPUT 3 ~ 4	Type A (19ピン) × 2 ※ HDCP 対応 ※ INPUT 3 は、SDI か HDMI のどちらかを選択
出力端子	SDI OUT PGM	BNC × 1 ※ SMPTE 424M (SMPTE 425M-AB)、292M 準拠
	SDI OUT PVW HDMI OUT MULTI-VIEW	BNC × 1 ※ SMPTE 424M (SMPTE 425M-AB)、292M 準拠 Type A (19ピン) × 1 ※ HDCP 対応
入力映像フォーマット *1 *2	SDI INPUT 1 ~ 3 *3 HDMI INPUT 3	720/59.94p、720/50p (FORMAT 切替スイッチ 720p 設定時) 1080/59.94i、1080/50i (FORMAT 切替スイッチ 1080i または 1080p 設定時) 1080/59.94p、1080/50p
	HDMI INPUT 4	480/59.94i、576/50i、480/59.94p、576/50p、720/59.94p、720/50p、 1080/59.94i、1080/50i、1080/59.94p、1080/50p、 VGA (640 × 480/60Hz)、SVGA (800 × 600/60Hz)、XGA (1024 × 768/60Hz)、 WXGA (1280 × 768/60Hz)、SXGA (1280 × 1024/60Hz)、 FWXGA (1366 × 768/60Hz)、SXGA+ (1400 × 1050/60Hz)、 UXGA (1600 × 1200/60Hz)、WUXGA (1920 × 1200/60Hz) ※ リフレッシュ・レートは各解像度の最大値です。 ※ VESA DMT Version 1.0 Revision 1.1 準拠 ※ 1920 × 1200/60Hz : Reduced blanking
出力映像フォーマット *2	SDI OUT PGM *3	720/59.94p、720/50p (FORMAT 切替スイッチ 720p 設定時)
	SDI OUT PVW *3	1080/59.94i、1080/50i (FORMAT 切替スイッチ 1080i 設定時)
	HDMI OUT MULTI-VIEW	1080/59.94p、1080/50p (FORMAT 切替スイッチ 1080p 設定時)
映像エフェクト	切り替え	カット、ミックス (ディゾルブ / FAM/NAM/ モザイク)、ワイプ (30 種類)
	合成	ピクチャー・イン・ピクチャー、スプリット、クワッド、DSK (ルミナンス・キー、クロマ・キー)

*1: インターレースで入力された映像は、本体内の処理でプログレッシブに変換されます。

*2: フレーム・レートは SETUP パラメーターで選択します (59.94 または 50)。

*3: SMPTE 296M、274M 準拠

■ 音声

音声処理	サンプリング・レート	24ビット / 48kHz
音声フォーマット	SDI	リニア PCM、24ビット、48kHz、2ch ※ SMPTE 299M 準拠
	HDMI	リニア PCM、24ビット、48kHz、2ch
入力端子	デジタル	SDI INPUT 1 ~ 3 (BNC) × 3 HDMI INPUT 3 ~ 4 (HDMI Type A 19ピン) × 2
	アナログ	AUDIO IN (RCA ピン・タイプ) MIC (ステレオ・ミニ・タイプ、プラグイン・パワー対応)
出力端子	デジタル	SDI OUT PGM : BNC × 1 SDI OUT PVW : BNC × 1 HDMI OUT MULTI-VIEW : Type A (19ピン) × 1
	アナログ	AUDIO OUT (RCA ピン・タイプ) PHONES (ステレオ・ミニ・タイプ)
	規定入力レベル	AUDIO IN MIC
入力インピーダンス	AUDIO IN	15k Ω
	MIC	10k Ω
規定出力レベル	AUDIO OUT	-10dBu (最大出力レベル : +8dBu)
	PHONES	92mW + 92mW (32 Ω 負荷時)
出力インピーダンス	AUDIO OUT	1k Ω
	PHONES	10 Ω
オーディオ・エフェクト	EQ、ディレイ、コンプレッサー、HPF、ゲート、リバーブ、マスタリング・エフェクト	

■ その他の端子	
USB	B Type (PC と接続してのリモート用)
RS-232	D-sub タイプ (9 ピン)

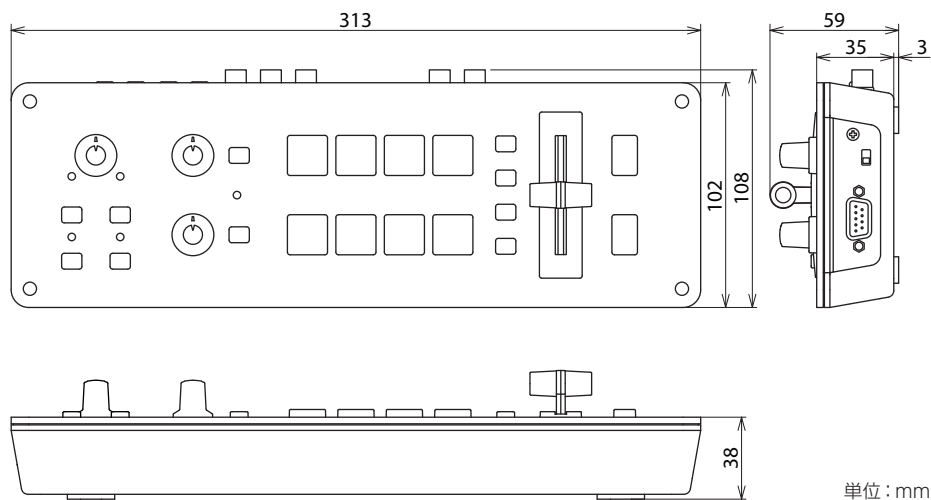
■ その他の機能	
メモリー (8 個)、フリーズ (入力映像の静止)、アウトプット・フェード (音声、映像:白または黒)	

■ その他	
電源	AC アダプター
消費電流	2.1A
消費電力	25W
動作温度	0 ~ +40°C
外形寸法	313 (幅) × 108 (奥行) × 59 (高さ) mm
質量	1.2kg (本体のみ)
付属品	取扱説明書、AC アダプター、電源コード、コード・フック、保証書、ローランド ユーザー登録カード

※ 0dBu = 0.775Vrms

※ 本書は、発行時点での製品仕様を説明しています。最新情報についてはローランド・ホームページをご覧ください。

外形寸法図



単位：mm

お問い合わせの窓口

● 製品に関するお問い合わせ先

ローランドお客様相談センター **050-3101-2555**

電話受付時間： 月曜日～金曜日 10:00～17:00（弊社規定の休日を除く）

※IP電話からおかけになって繋がらない場合には、お手数ですが、電話番号の前に“0000”（ゼロ4回）をつけてNTTの一般回線からおかけいただくか、携帯電話をご利用ください。

※上記窓口の名称、電話番号等は、予告なく変更することがありますのでご了承ください。

● 最新サポート情報

製品情報、イベント／キャンペーン情報、サポートに関する情報など

ローランド・ホームページ <https://www.roland.com/jp/>

ボス・ホームページ <https://www.boss.info/jp/>

’16. 10. 01 現在 (Roland)

知的財産権について

- ・ 第三者の著作物（音楽作品、映像作品、放送、実演、その他）の一部または全部を、権利者に無断で録音、録画、複製あるいは改変し、配布、販売、貸与、上演、放送などを行うことは法律で禁じられています。
- ・ 第三者の著作権を侵害する恐れのある用途に、本製品を使用しないでください。お客様が本製品を用いて他者の著作権を侵害しても、当社は一切責任を負いません。
- ・ 本製品は技術的保護手段による制約の一部または全部を受けずに録音、録画あるいは複製を行うことができます。これは本製品が音楽制作や映像制作を目的としており、他者の著作権を侵害しない作品（自作曲など）の録音、録画あるいは複製まで、制約を受けることがないよう設計されているためです。
- ・ 本製品には、イーソル株式会社のソフトウェアプラットフォーム「eParts™」が搭載されています。
- ・ Roland は、日本国およびその他の国におけるローランド株式会社の登録商標または商標です。
- ・ 文中記載の会社名および製品名は、各社の登録商標または商標です。
- ・ MIDI は、社団法人音楽電子事業協会（AMEI）の登録商標です。



ローランド株式会社
〒431-1304 静岡県浜松市北区細江町中川 2036-1

